

## 長岡赤十字病院 医療の質評価

長岡赤十字病院では、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野のQIP事業 (<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/>) に参加しています。

全国500施設以上の病院が参加しており、当院の今までとの比較や他の参加病院と比較することで、医療の質の改善に役立てていきます。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値についてはQIP事業に参加する全国の病院の平均値を用いています。

項目番号	指標番号	指標項目
1	549	脳梗塞(TIA含む)の診断で入院し、入院2日目までに抗血小板療法あるいは一部の抗凝固療法を受けた症例の割合
2	842	脳梗塞(TIA含む)の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合
3	5001	脳梗塞の診断で入院し、抗痙攣薬を投与しない割合
4	2142	脳梗塞の診断で入院し、血栓溶解療法あるいは血栓除去治療を受けた症例の割合
5	2167	脳卒中症例に対する地域連携の実施割合
6	2170	脳梗塞(TIA含む)の診断で入院し、抗血小板薬を処方された症例の割合
7	2171	脳梗塞患者のスタチン処方割合
8	2178	脳梗塞の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合
9	2179	脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合
10	2180	脳梗塞の診断で入院し、入院2日目あるいは3日目に初めてリハビリ治療を受けた症例の割合
11	2189	くも膜下出血の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合
12	2190	脳内出血の診断で入院し、リハビリ治療を受けた症例の割合
13	417	喘息入院患者における退院後30日間以内の同一施設再入院割合
14	2093	院内肺炎症例の平均抗菌薬投与日数
15	2095	院内肺炎症例の治癒軽快割合
16	2181	肺血栓塞栓症リスク中以上の手術実施症例に対する予防策実施率(60歳以上)
17	2182	肺血栓塞栓症リスク中以上の手術実施症例に対する予防策実施率(40~59歳)
18	2192	リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率(厚生省)
19	2002	急性心筋梗塞患者におけるβブロッカー投与割合
20	2003	急性心筋梗塞患者におけるACE阻害剤もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤の投与割合
21	475	急性心筋梗塞患者における当日アスピリン投与割合
22	2174	急性心筋梗塞患者における抗血小板薬投与割合
23	2175	急性心筋梗塞患者におけるスタチン投与割合

項目番号	指標番号	指標項目
24	2077	急性心筋梗塞(再発性心筋梗塞含む)患者に対する心臓リハビリ実施割合
25	2078	急性または慢性心不全患者に対する心臓リハビリ実施割合
26	2188	急性心筋梗塞症例に対する地域連携の実施割合
27	2056	急性膵炎に対する 入院2日以内のCT実施割合
28	5002	小児虫垂炎入院症例で超音波検査の施行割合
29	2126	胆管炎・急性胆嚢炎に対する入院2日以内の超音波検査実施割合
30	2138	急性膵炎に対する 入院2日以内の造影CT実施割合
31	2132	アスピリン内服患者の退院時酸分泌抑制薬(PPI/H2RA)処方率
32	2046	大腿骨頸部骨折における早期リハビリ開始率
33	2114	大腿骨頸部骨折の早期手術割合
34	2115	大腿骨転子部骨折の早期手術割合
35	2166	大腿骨頸部骨折症例に対する地域連携の実施割合
36	2038	T1-2,NOMO乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率
37	2075	糖尿病入院患者に対する栄養指導実施率
38	684	帝王切開術における全身麻酔以外の割合
39	687	帝王切開術のための入院期間中に輸血を受けた症例の割合
40	2041	ハイリスク妊娠・分娩症例の割合
41	2127_1	75歳以上の入院症例でトリアゾラムが処方された割合
42	2127_2	75歳以上の入院症例で長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
43	2127_3	75歳以上の入院症例でトリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された割合
44	2191	外来で経口抗精神病薬を処方した症例の中、定型抗精神病薬を含めない割合
45	2195	外来で睡眠薬を処方された75歳以上の症例の中で、ベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬が処方されていない割合
46	2196	外来で睡眠薬の処方のある症例のうち、睡眠薬が単剤または2剤である割合
47	2023	抗MRSA薬投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合
48	2108	抗MRSA薬投与症例対して、細菌検査を実施された割合
49	2107	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合
50	2107_2	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合(生後28日未満)
51	2107_3	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合(生後28日以上2歳未満)
52	2107_4	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合(2歳以上6歳未満)
53	2107_5	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合(6歳以上)

項目番号	指標番号	指 標 項 目
54	2107_6	血液培養検査において、同日に2セット以上の実施割合(外来)
55	2031_4	市中肺炎症例に対し、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例の割合
56	2031_6	市中肺炎症例に対し、入院当日から抗菌薬を投与された症例の割合
57	2031_7	市中肺炎症例に対する、注射抗菌薬開始時の抗緑膿菌薬投与割合
58	2124	カルバペネム・ニューキノロン・抗MRSA薬使用時の血液培養実施率
59	2124_2	カルバペネム・ニューキノロン・抗MRSA薬使用までの培養検査実施率
60	2128	経口第3世代セフェム処方が経口抗菌薬全体に占める割合
61	2129	経口カルバペネム処方数が経口抗菌薬全体に占める割合
62	2183	院内感染治療の耐性菌治療割合
63	2184	関節置換術症例の院内感染治療の耐性菌治療割合
64	2185	院内肺炎治療の耐性菌治療割合
65	2193	血液培養2セット実施率(厚労省)
66	2194	広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率(厚労省)
67	2042	小児入院患者件数に対する、時間外または深夜入院の入院数および割合
68	2071	悪性腫瘍症例に対する退院支援の割合
69	2048	薬剤管理指導実施割合(実施患者数ベース)
70	2079	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への栄養管理実施割合
71	2080	糖尿病・慢性腎臓病を併存症に持つ患者への早期栄養管理実施割合
72	2084	退院後6週間以内の救急医療入院率(退院症例集計)
73	2090	DPC入院期間II以内の割合
74	2091	DPC入院期間III超えの割合
75	2101	悪性腫瘍(4種)手術症例における大量輸血の割合2(食道がん・胃がん・大腸がん・直腸がん)
76	2102	誤嚥性肺炎症例に対する退院支援の割合
77	2103	認知症を伴う症例に対する退院支援の割合
78	2104	薬剤管理指導実施開始の平均日数
79	2105	悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症の症例に対する退院支援の割合
80	2139	薬剤管理指導入院3日以内実施割合(実施患者数ベース)
81	2141	全入院患者に対する薬剤総合評価調整加算の算定割合
82	2143	退院後7日以内の予定外再入院割合
83	2048_2	薬剤管理指導実施割合(実施患者数ベース)(病棟薬剤業務実施加算の有る医療機関)

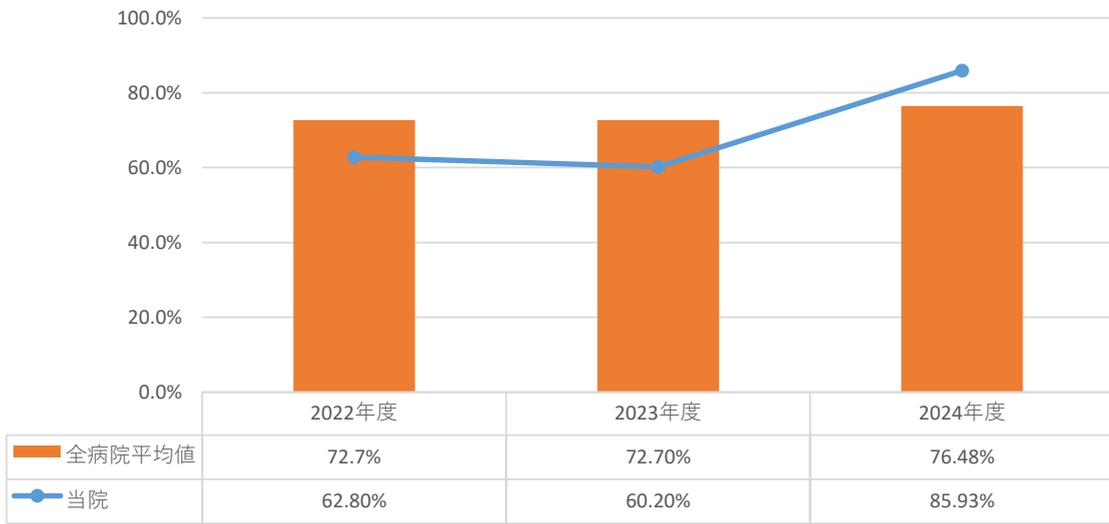
項目番号	指標番号	指 標 項 目
84	2177	退院後4週間以内の予定外再入院割合
85	2199	外来の糖尿病性腎症に対しアンジオテンシン変換酵素阻害薬あるいはアンジオテンシンII受容体拮抗薬の処方割合
86	2133	シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合
87	2137	EC(エピルビシン、シクロホスファミド)療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合
88	2133_2	シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合(外来)
89	2135_2	ダカルバジンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合(外来)
90	2136_2	AC(ドキシソルビシン、シクロホスファミド)療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合(外来)
91	2137_2	EC(エピルビシン、シクロホスファミド)療法後の急性期予防的制吐剤の投与割合(外来)

1

549

549

脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院2日目までに抗血小板療法あるいは一部の抗凝固療法を受けた症例の割合



意義 脳梗塞の治療に際して急性期に抗血小板療法もしくは抗凝固療法を開始することが勧められる。

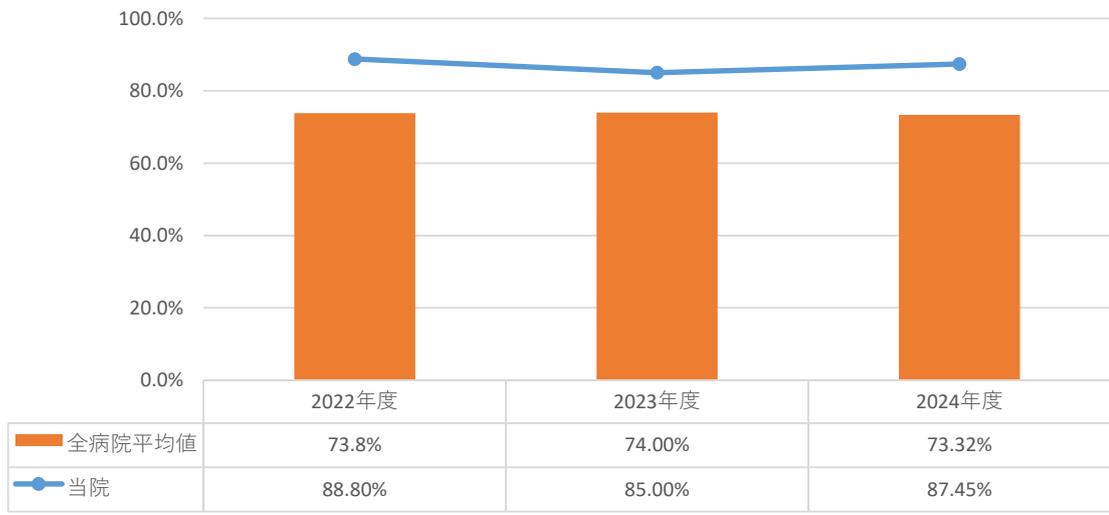
計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例  
分子 分母のうち、入院2日目までに抗血小板療法もしくは一部の抗凝固療法（オザグレリナトリウム）を受けた症例

2

842

842

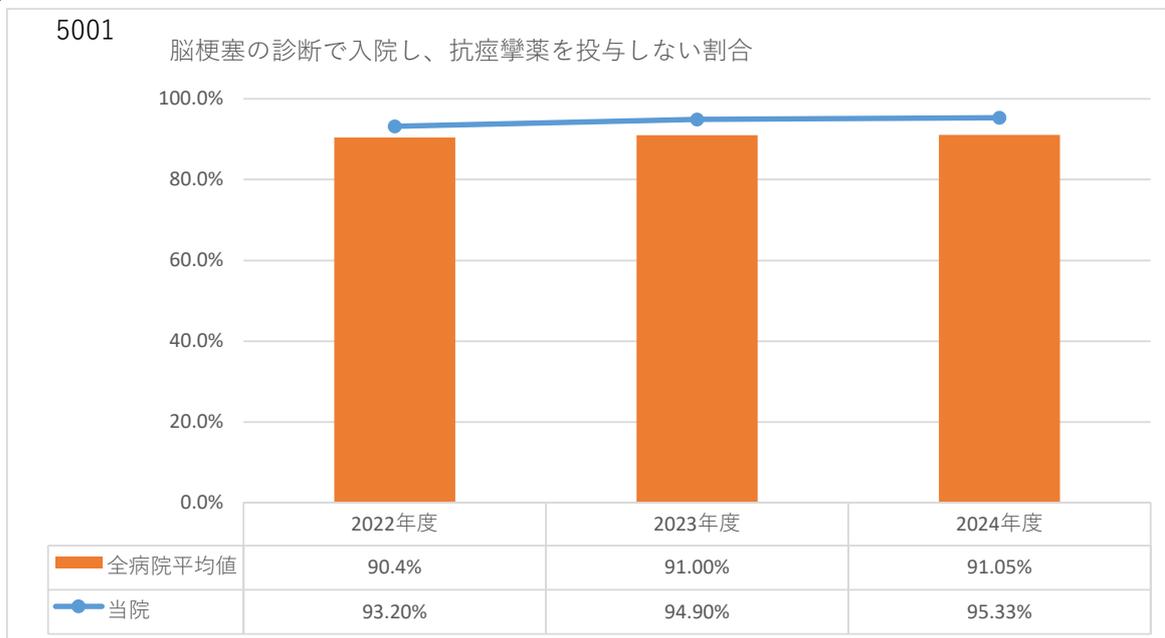
脳梗塞（TIA含む）の診断で入院し、入院中に未分画ヘパリンを投与されなかった症例の割合



意義 脳梗塞の治療に際しては原則として勧められない。

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例  
分子 分母のうち、未分画ヘパリンを投与されなかった症例

### 3 5001

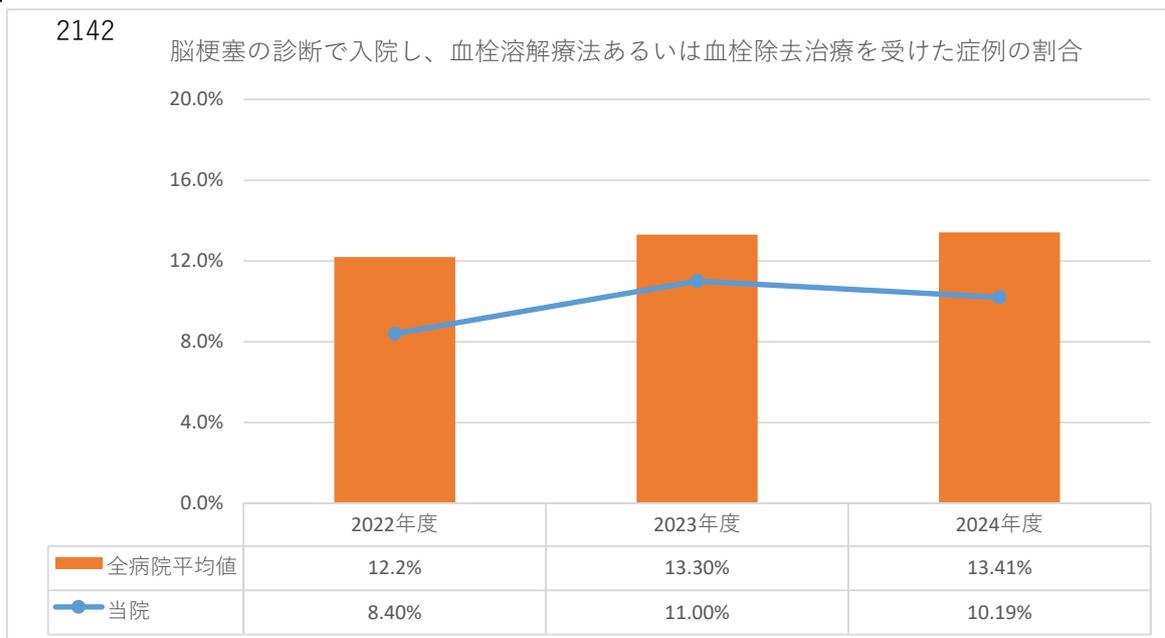


意義 Choosing Wisely

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子 分母のうち、抗凝固薬内服を投与されていない症例

### 4 2142



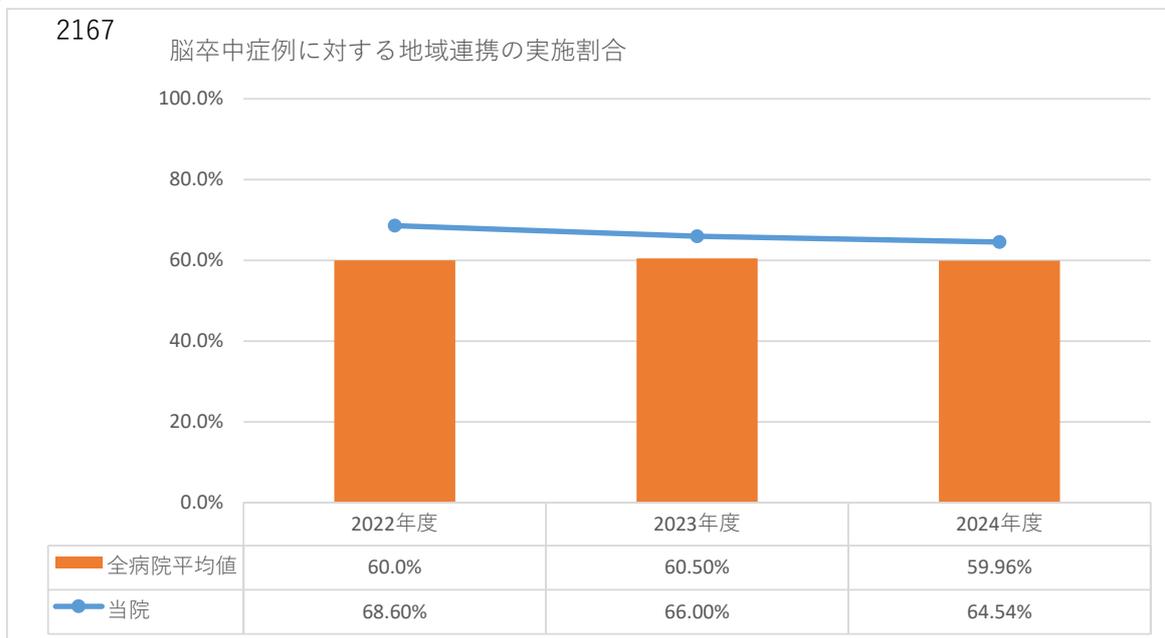
意義 有効な治療

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子 分母のうち、入院中に血栓溶解療法あるいは血栓除去治療を受けた症例

# 5

2167



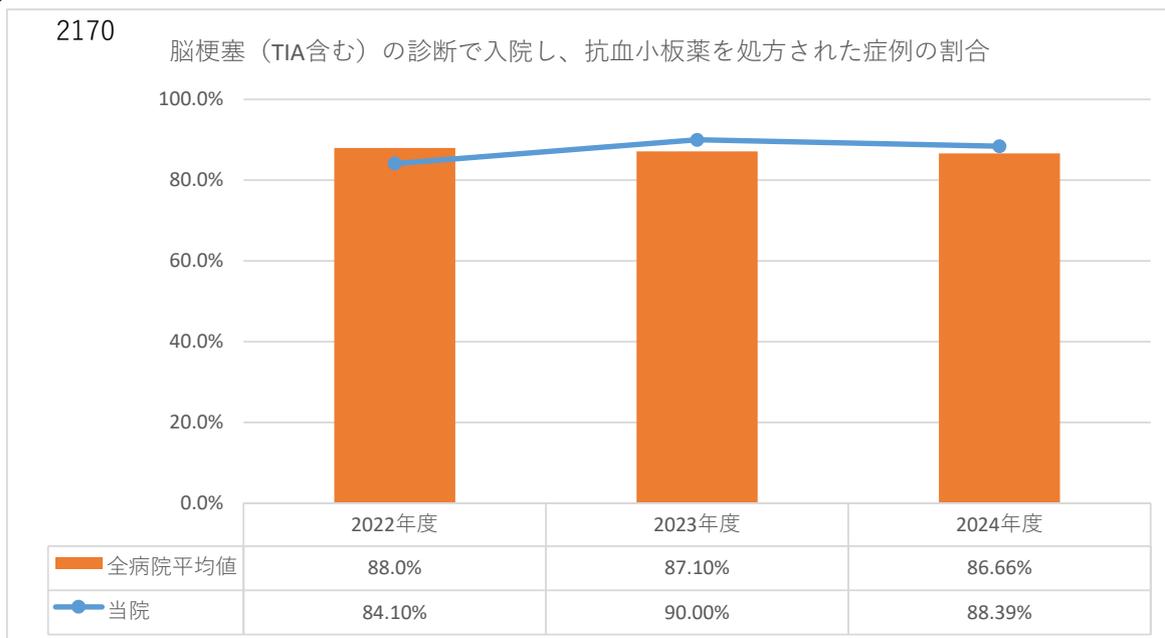
意義 地域連携実績を評価する。

計算方法 分母 脳卒中で入院した症例

分子 分母のうち、地域連携に関する算定のある症例

# 6

2170



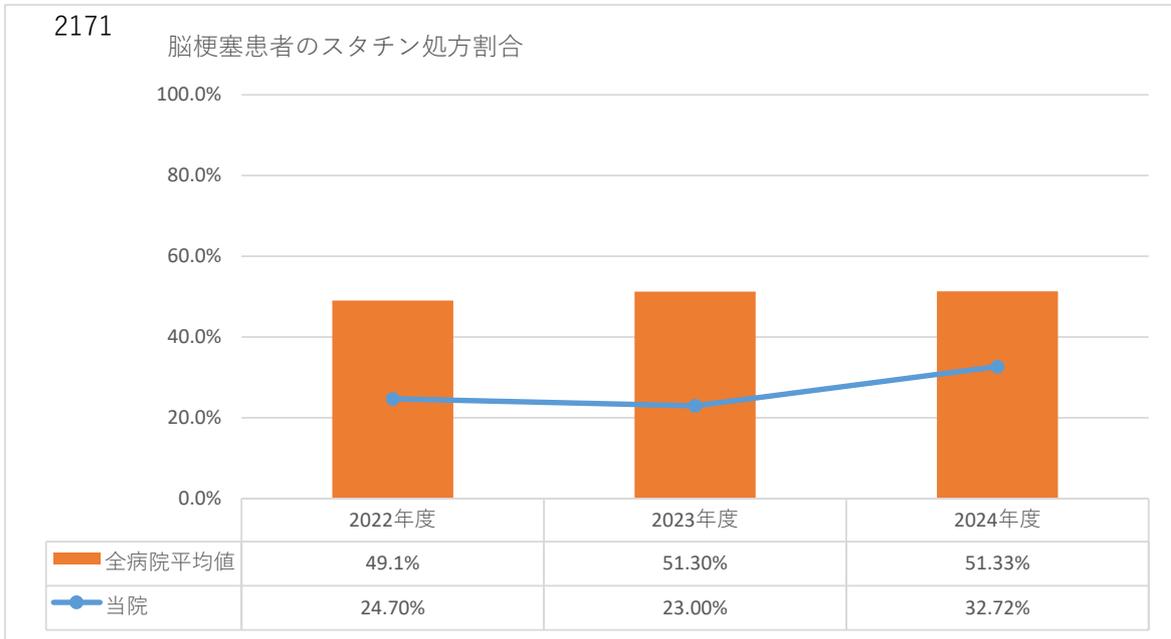
意義 脳梗塞の3次予防に抗血小板薬は有効である。

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞かTIAの診断で入院した症例

分子 分母のうち、抗血小板薬を処方された症例

# 7

2171



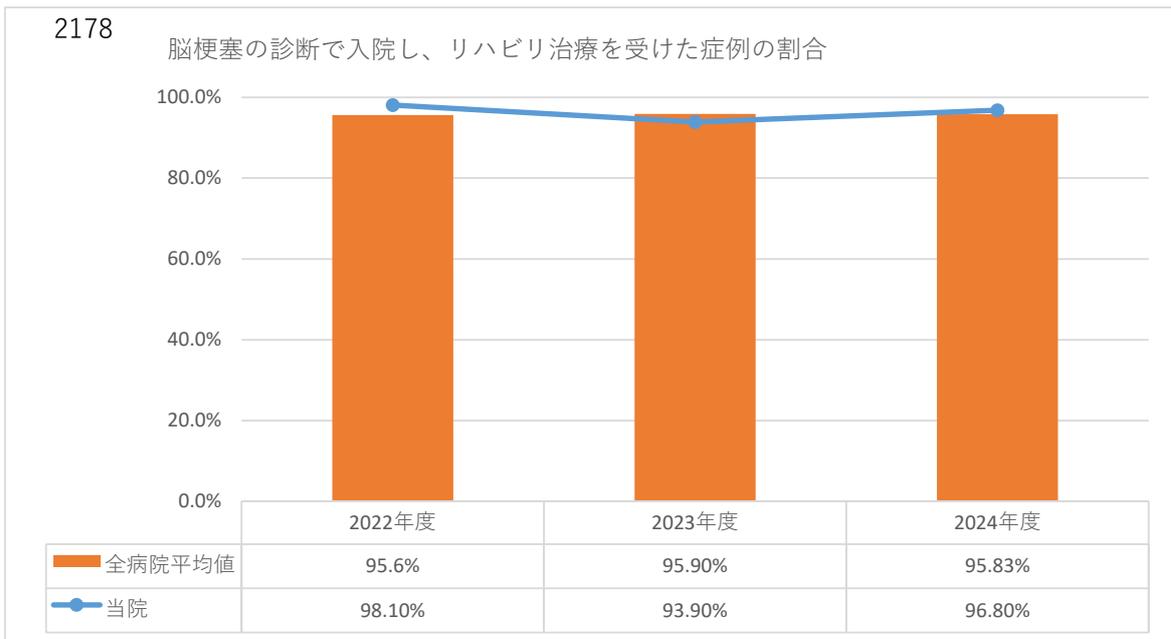
意義 退院後の再発予防内容を見るプロセス指標

計算方法 分母 脳梗塞で入院した症例数

分子 分母のうち、スタチンが投与された症例数

# 8

2178



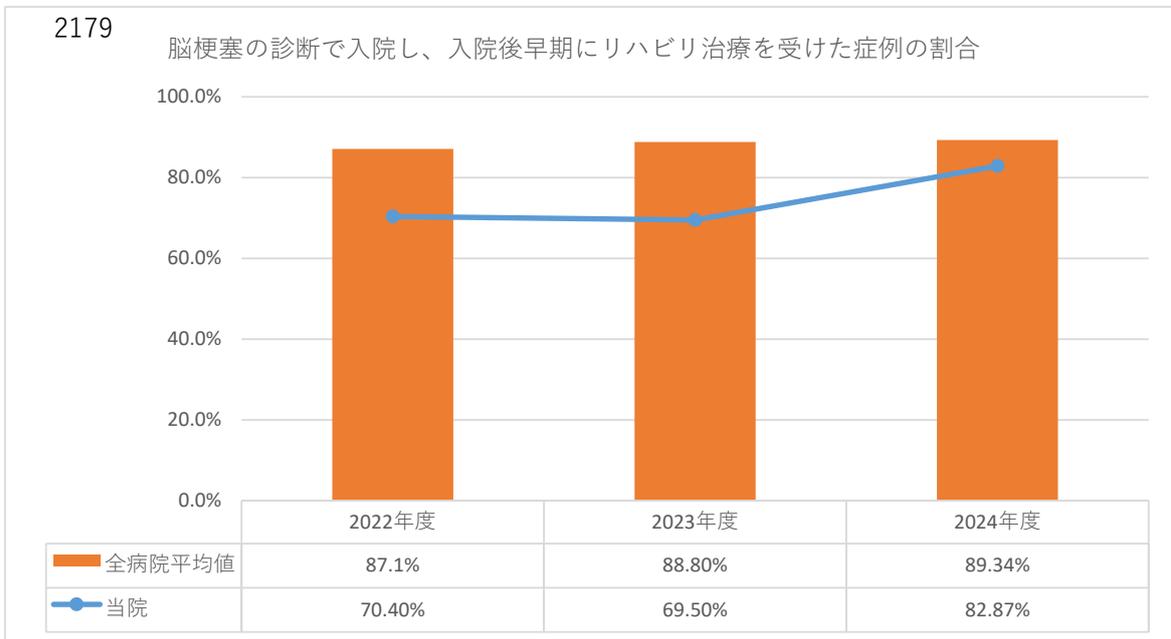
意義 脳卒中後のリハビリは、機能の早期回復と低下抑制につながる。

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子 分母のうち、リハビリテーションを受けた症例

9

2179



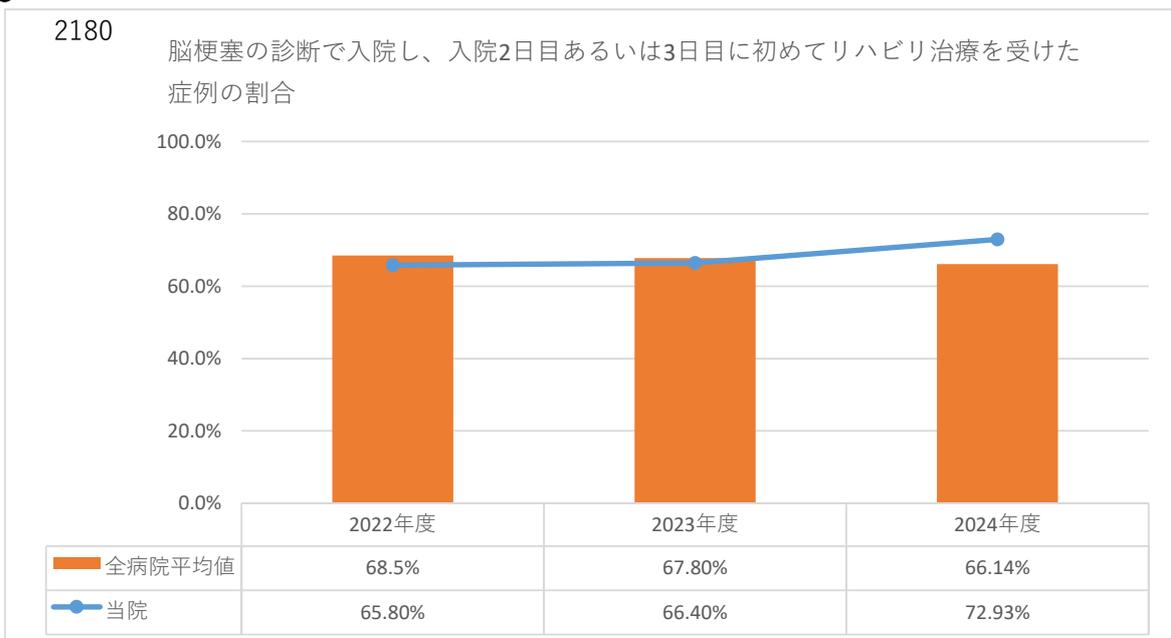
意義 脳卒中の診断後、できるだけ早期にリハビリを開始することが、機能の早期回復と低下抑制につながる。

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子 分母のうち、入院後早期（3日以内）にリハビリテーション治療を受けた症例

10

2180



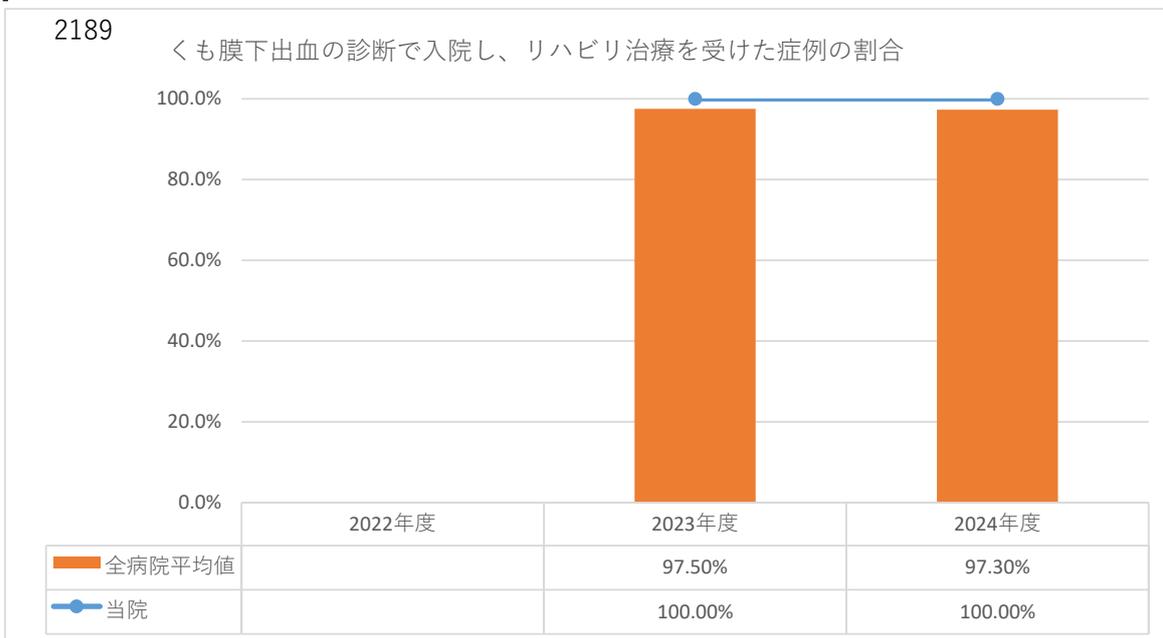
意義 脳卒中発症後、24時間以内の離床開始は推奨されず、かつ24-48時間以内にリハビリテーション計画を立てることが勧められる

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例

分子 分母のうち、入院当日（入院1日目）にはリハビリテーションを実施されず、かつ入院後2日目あるいは3日目にリハビリテーションを実施した症例

# 11

2189



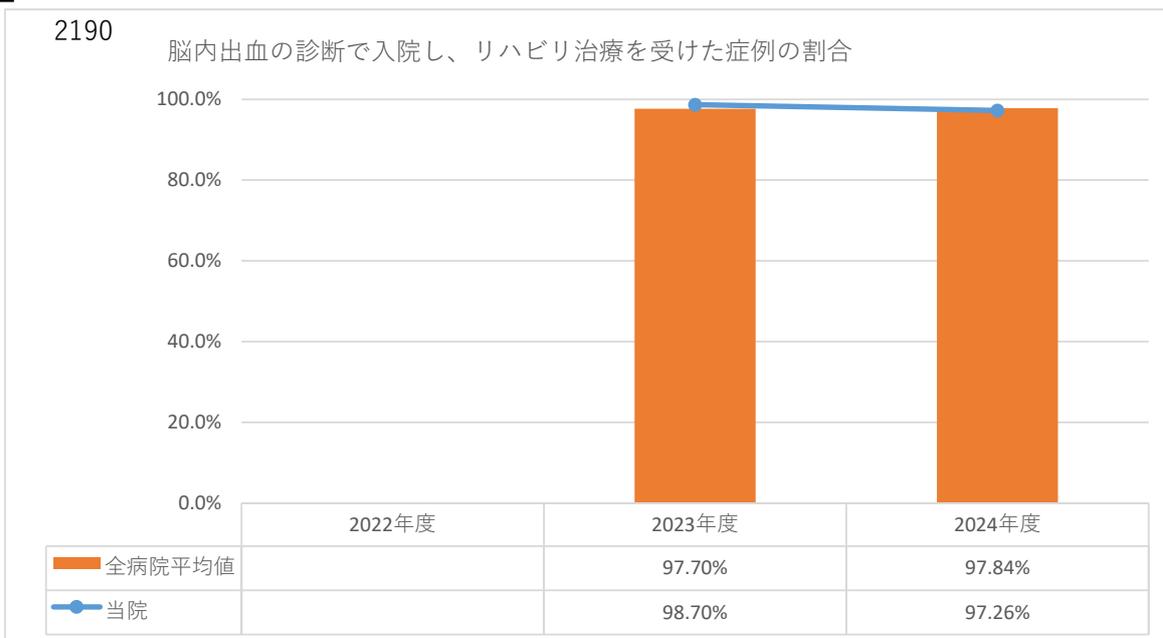
意義 脳卒中後のリハビリは、機能の早期回復と低下抑制につながる。

計算方法 分母 18歳以上でくも膜下出血の診断で入院した症例

分子 分母のうち、リハビリテーションを受けた症例

# 12

2190



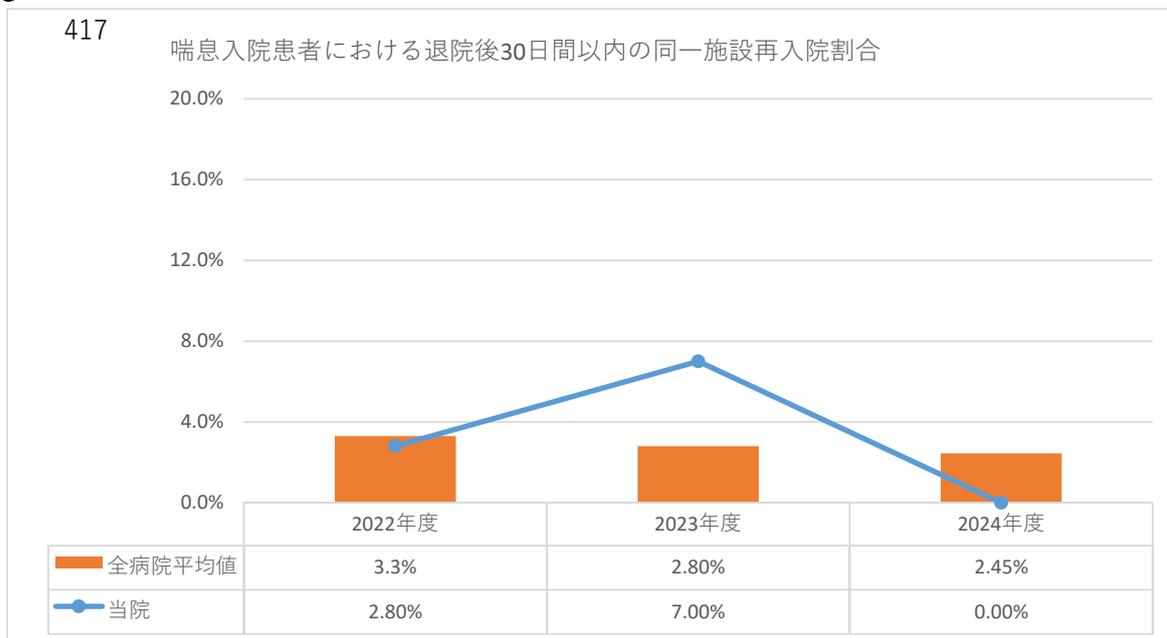
意義 脳卒中後のリハビリは、機能の早期回復と低下抑制につながる。

計算方法 分母 18歳以上の脳内出血の診断で入院した症例

分子 分母のうち、リハビリテーションを受けた症例

# 13

417



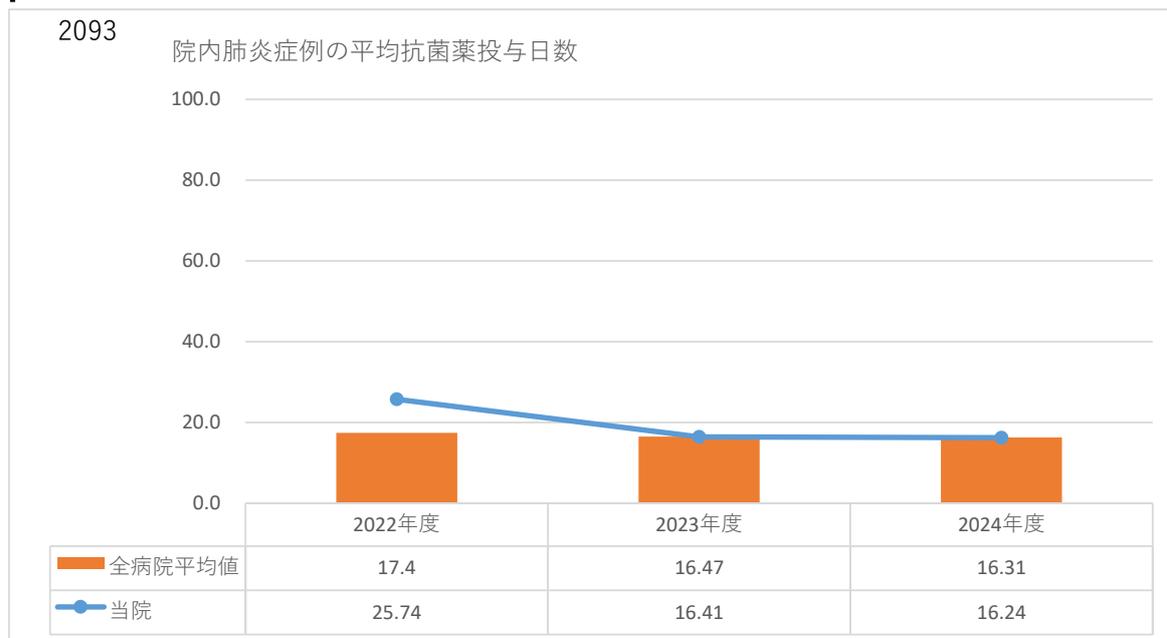
意義 治療成績をみるアウトカム指標。他施設よりも値が特に高い施設では再発予防に向けた慢性期管理を見直す契機になる。

計算方法 分母 喘息に関連した原因による5歳以上の入院症例数

分子 分母のうち、退院後30日間以内に喘息に関連した原因で再入院した症例数

# 14

2093



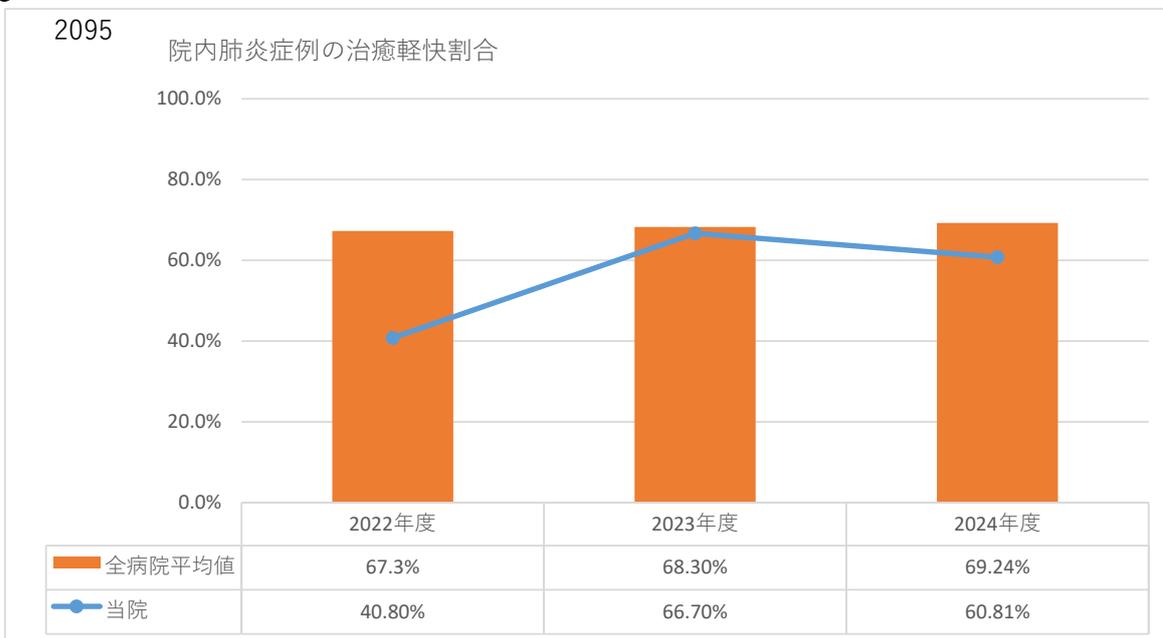
意義 マネジメント

計算方法 分母 院内肺炎症例数

分子 院内肺炎症例の抗菌薬投与日数合計

# 15

2095



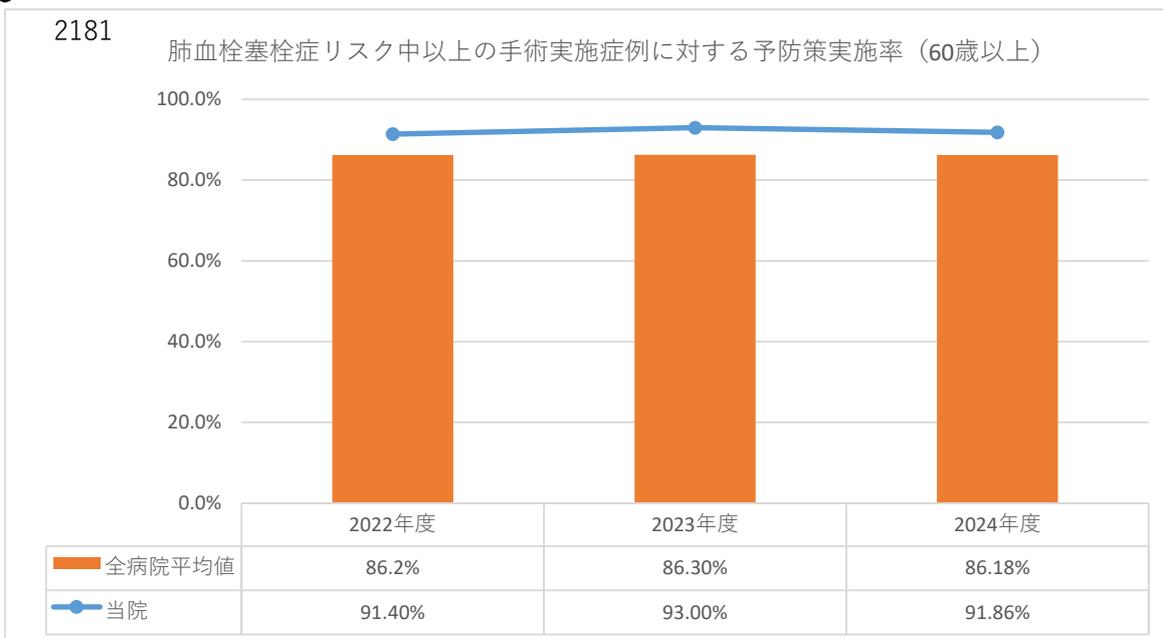
意義 マネジメント

計算方法 分母 院内肺炎症例数

分子 治癒または軽快で退院した症例数

# 16

2181



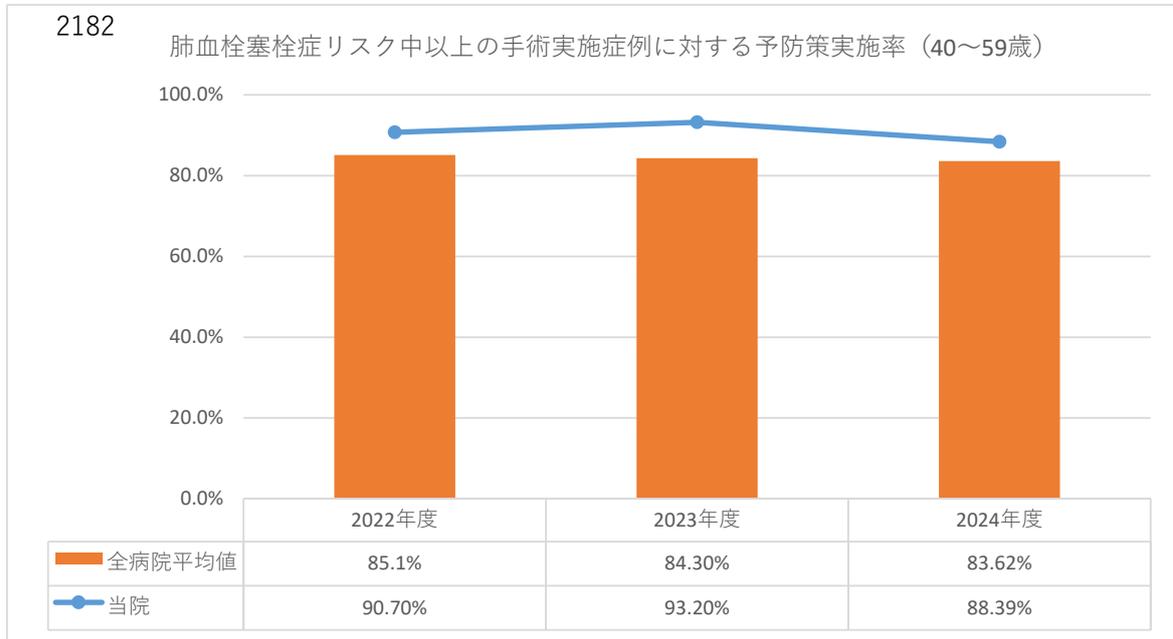
意義 周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は発生率を下げることに繋がる。

計算方法 分母 60歳以上の手術麻酔が算定された症例

分子 肺血栓塞栓症の予防管理料の算定、あるいは予防に利用する薬剤が手術日の前日、当日、翌日の少なくともいずれかに算定されている症例

17

2182



意義 周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は発生率を下げることに繋がる。

計算方法 分母 40歳以上60歳未満かつ45分以上の手術麻酔が算定された症例  
 分子 肺血栓塞栓症の予防管理料の算定、あるいは予防に利用する薬剤が手術日の前日、当日、翌日の少なくともいずれかに算定されている症例

18

2192

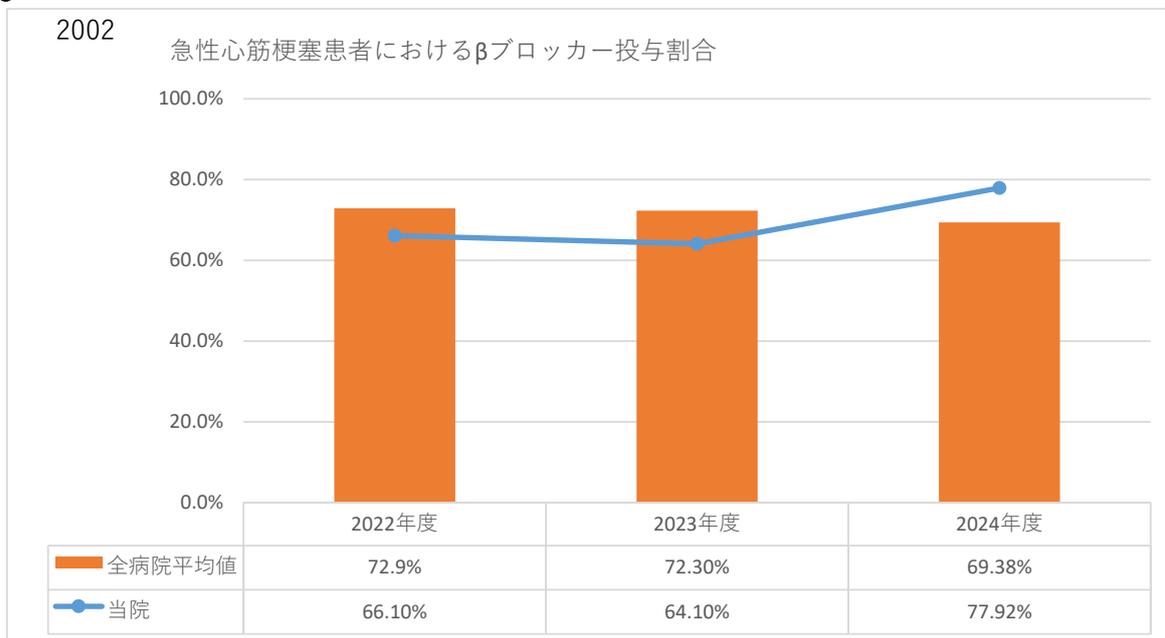


意義 周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は発生率を下げることに繋がる。

計算方法 分母 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数  
 分子 肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数

# 19

2002

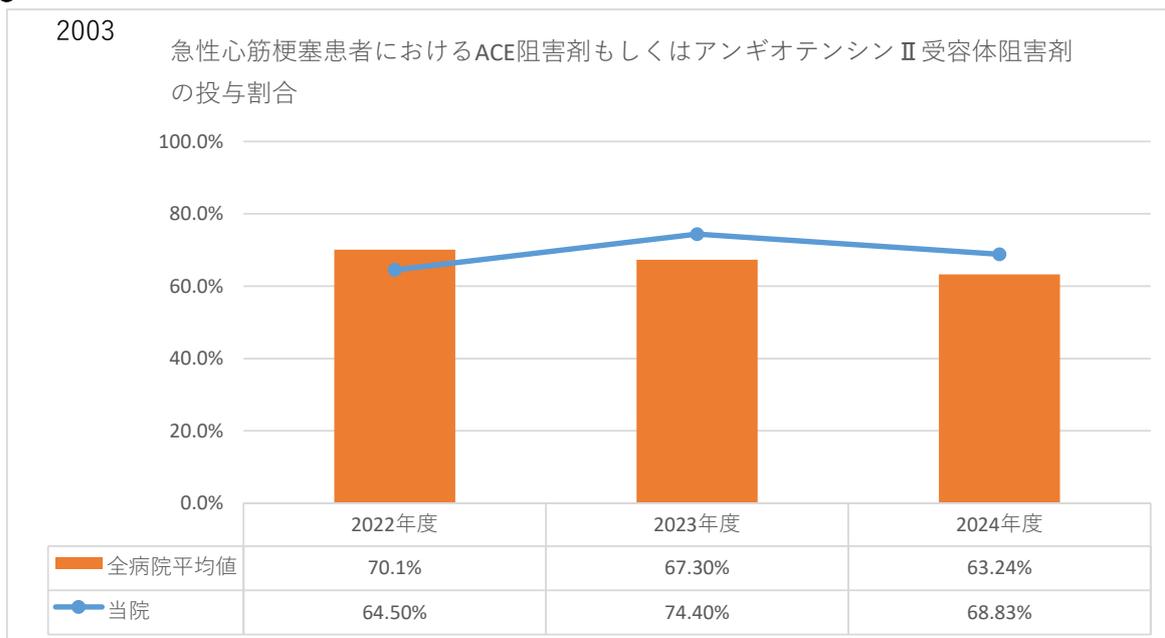


意義 心筋梗塞の二次予防に必須とされている薬剤の投与割合です。割合が高い方が望ましいとされています。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例数  
分子 分母のうち、βブロッカーが投与された症例数

# 20

2003

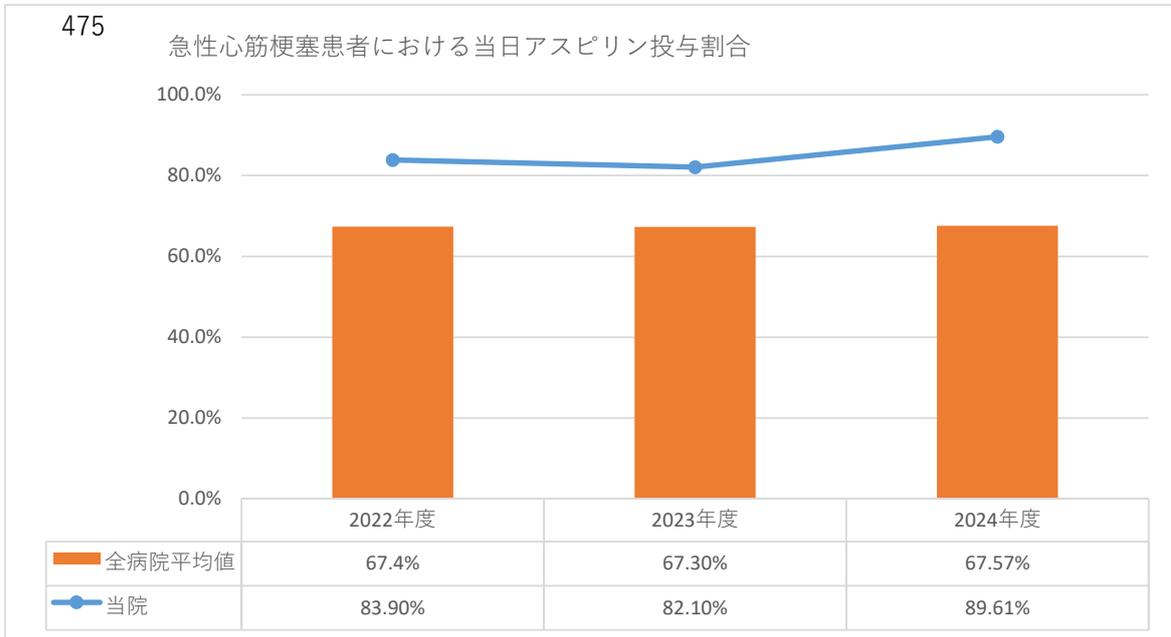


意義 心筋梗塞の二次予防に必須とされている薬剤の投与割合です。割合が高い方が望ましいとされています。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例数  
分子 分母のうち、ACE阻害剤（ACEI）もしくはアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤（ARB）が投与された症例数

## 21

475



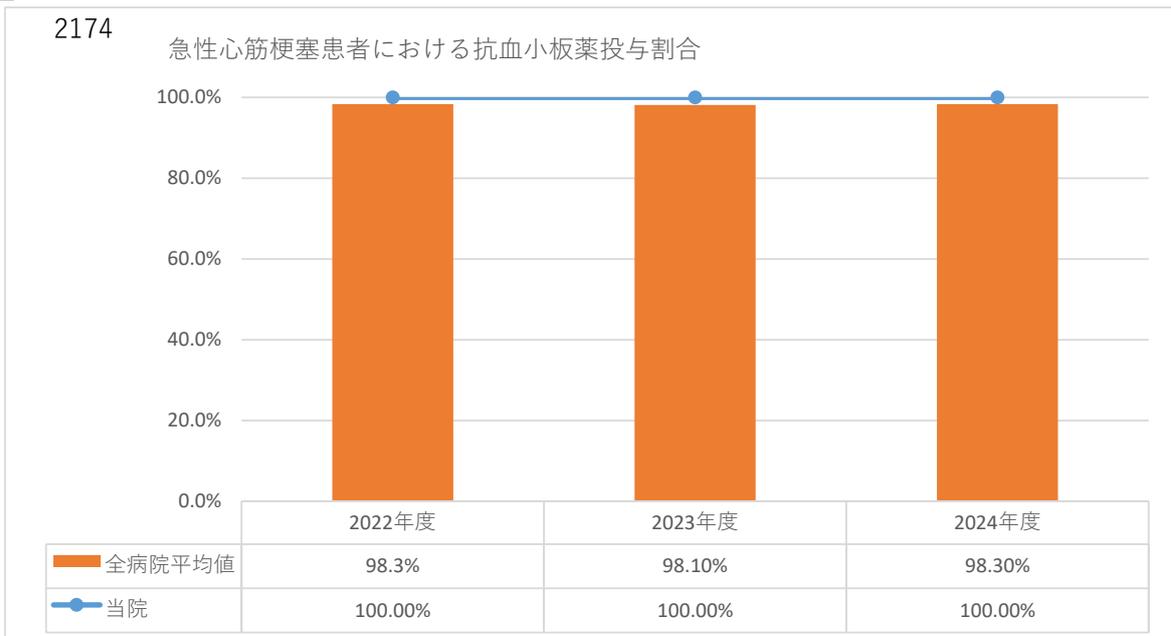
意義 心筋梗塞の二次予防に必須とされている薬剤の投与割合です。割合が高い方が望ましいとされています。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例数

分子 分母のうち入院当日にアスピリンが投与された症例数

## 22

2174



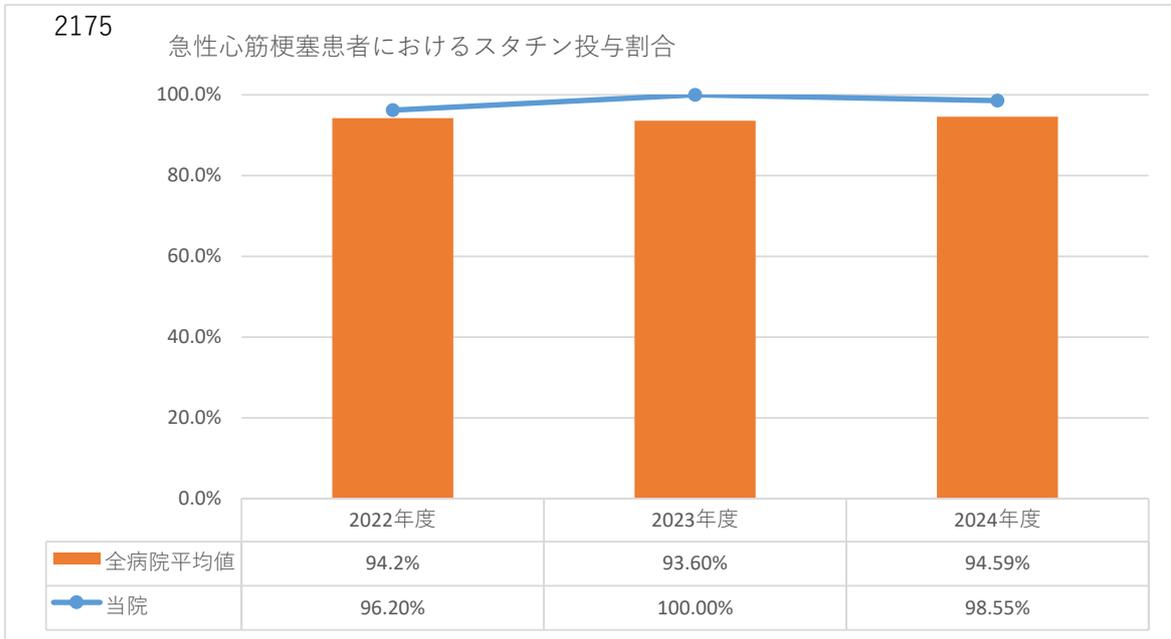
意義 心筋梗塞の二次予防に必須とされている薬剤の投与割合です。割合が高い方が望ましいとされています。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例数

分子 分母のうち、アスピリン、チクロピジン、プラスグレル、クロピドグレル、チカグレロルのいずれかが投与された症例数

23

2175



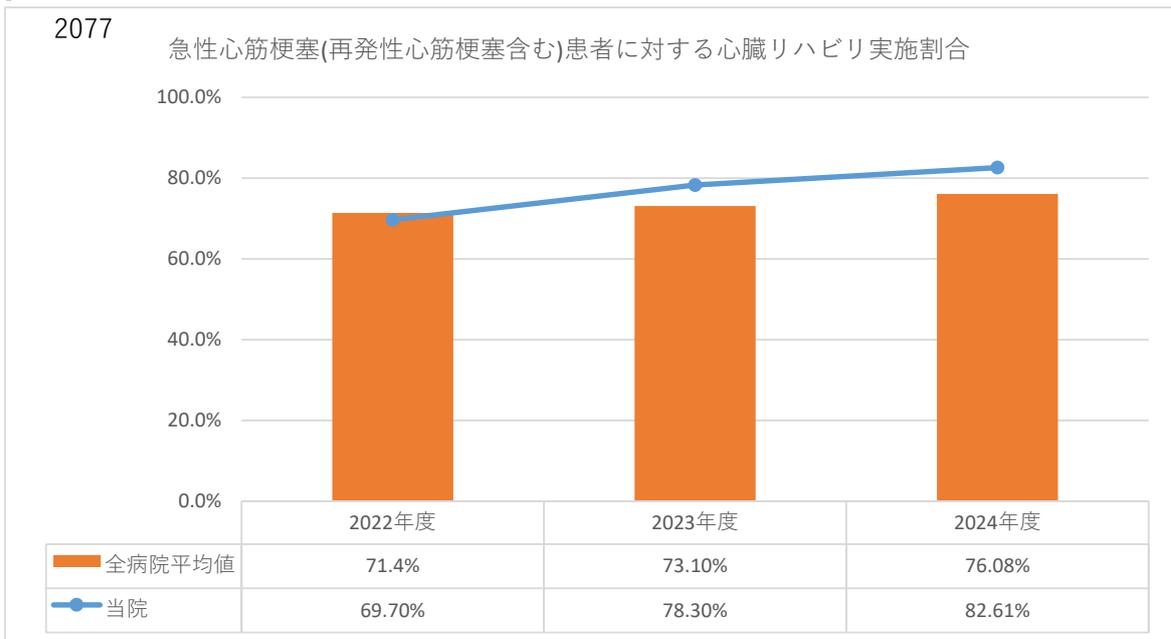
意義 心筋梗塞の二次予防に必須とされている薬剤の投与割合です。割合が高い方が望ましいとされています。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例数

分子 分母のうち、スタチンが投与された症例数

24

2077



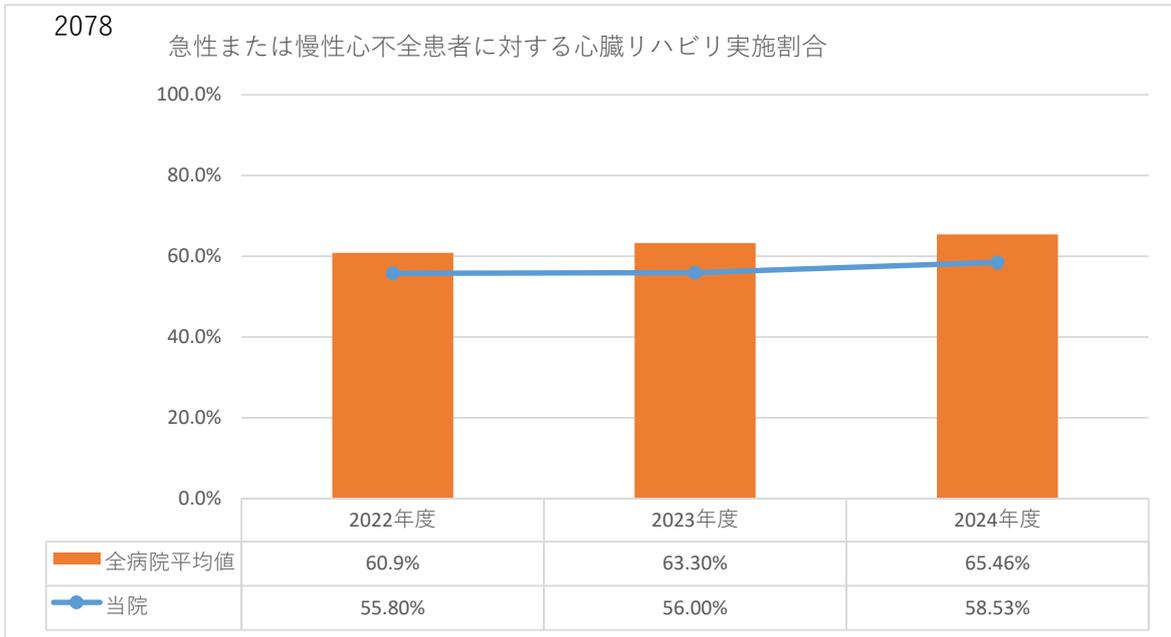
意義 プロセス指標

計算方法 分母 急性心筋梗塞(再発性心筋梗塞含む)で入院した症例数

分子 分母のうち、心臓リハビリが実施された症例数

# 25

2078



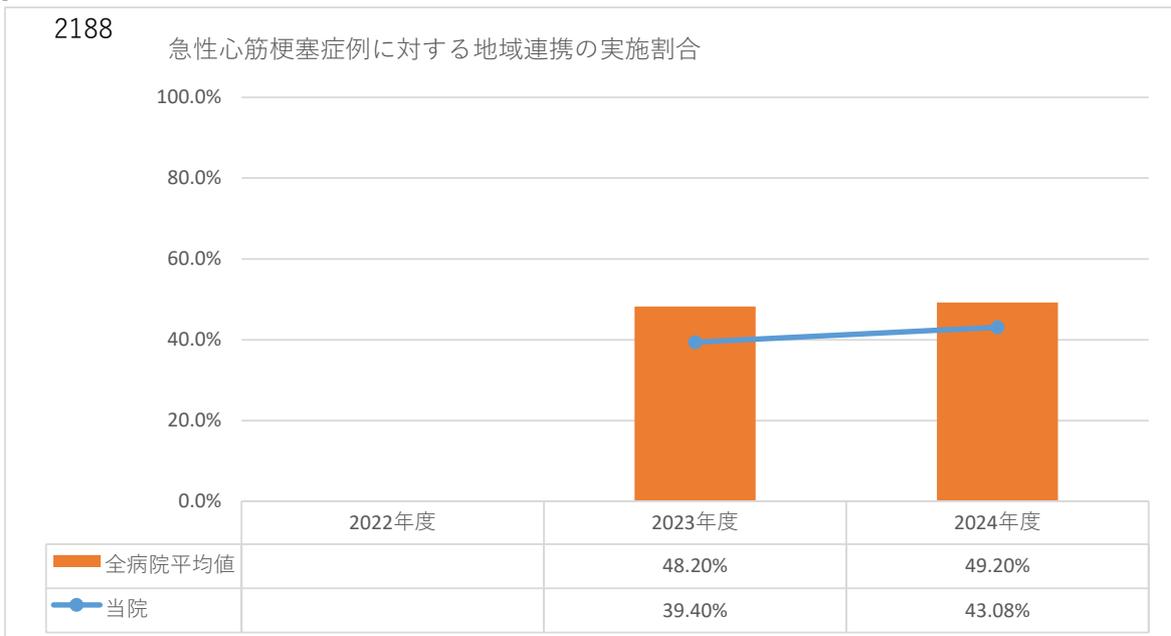
意義 プロセス指標

計算方法 分母 急性または慢性心不全で入院した症例数

分子 分母のうち、心臓リハビリが実施された症例数

# 26

2188



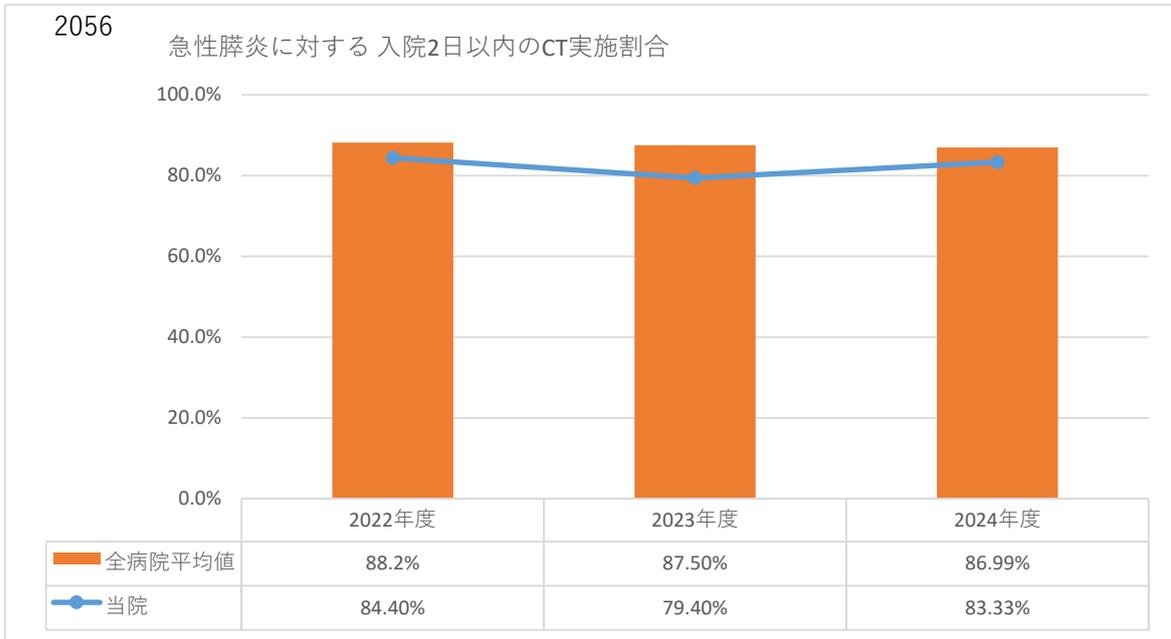
意義 地域連携実績を評価する。

計算方法 分母 急性心筋梗塞で入院した症例

分子 分母のうち、地域連携に関する算定のある症例

27

2056



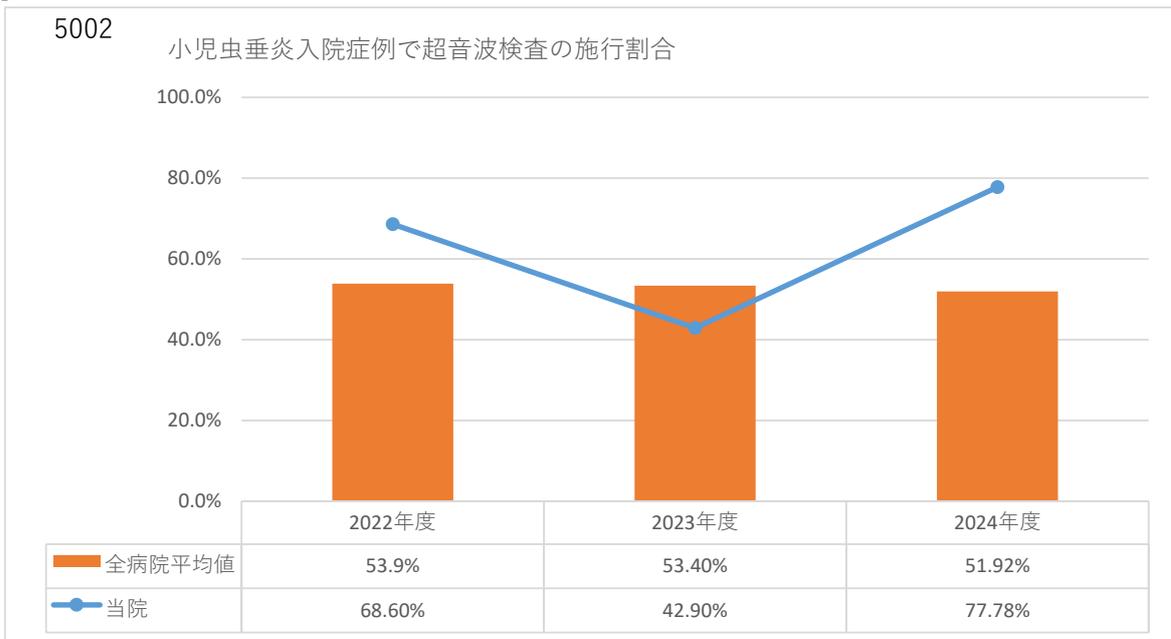
意義 急性膵炎においては、診断、重症度判定のためCT検査を施行することが勧められている

計算方法 分母 急性膵炎で退院した症例

分子 分母のうち、入院日から2日以内にCTが施行された症例

28

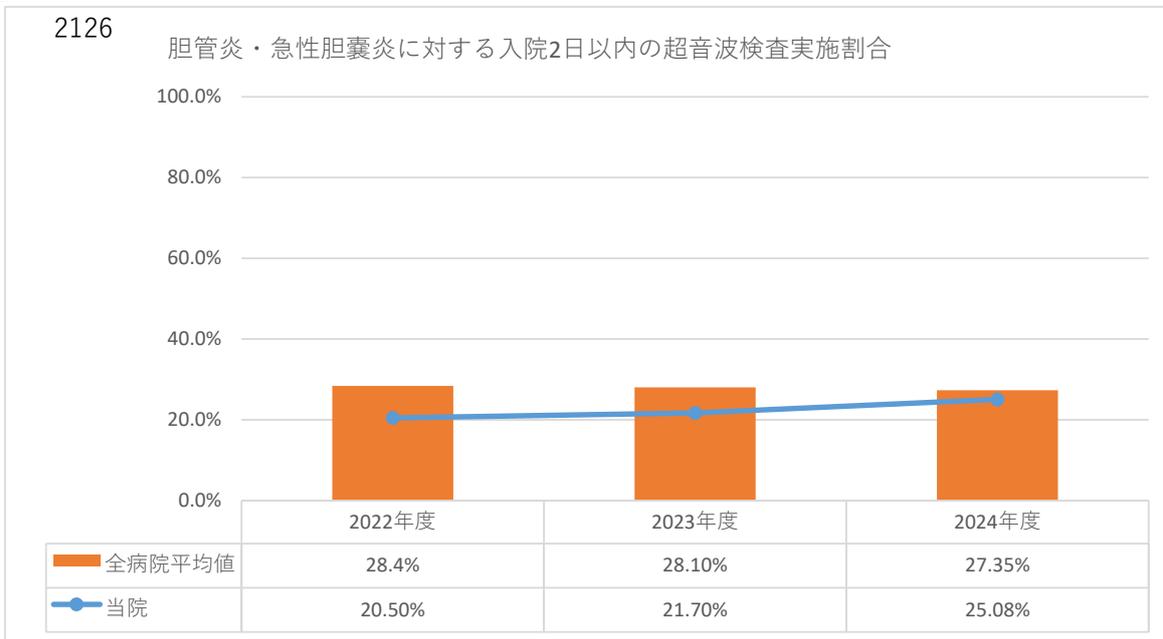
5002



意義 虫垂炎の診断に超音波検査は有要である

計算方法 分母 虫垂炎で入院した小児（5歳から15歳）症例

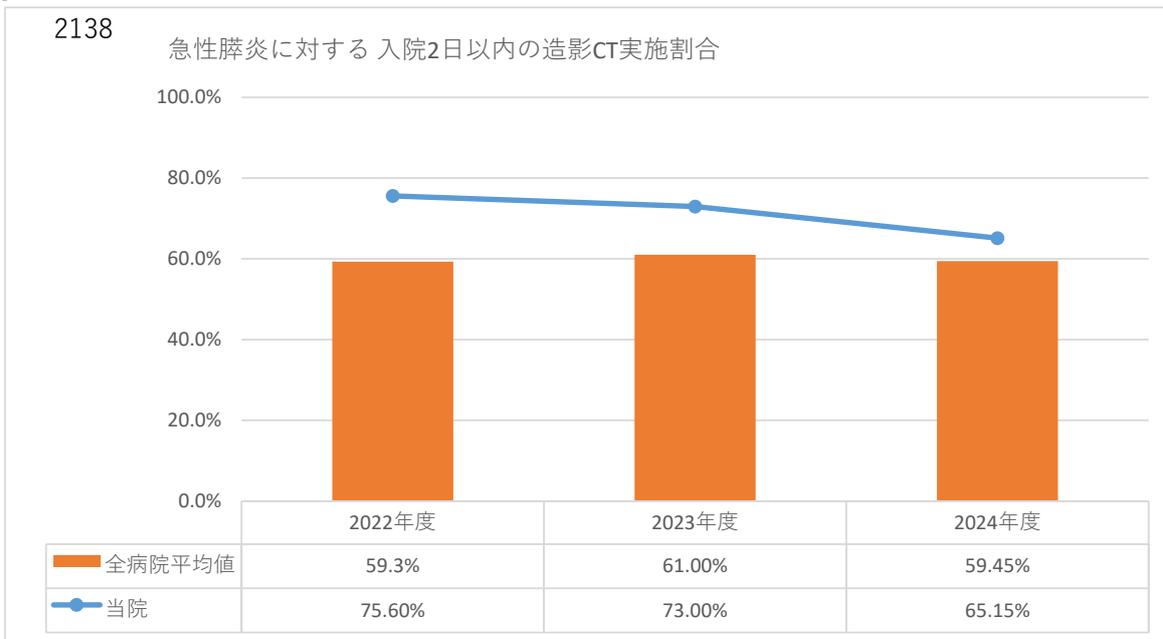
分子 分母のうち、入院当日に超音波検査を施行された症例



意義 急性胆嚢炎の治療方針の決定のため重要である（プロセス指標）

計算方法 分母 胆管炎・急性胆嚢炎で入院した症例

分子 分母のうち、入院日から2日以内に超音波検査が実施された症例



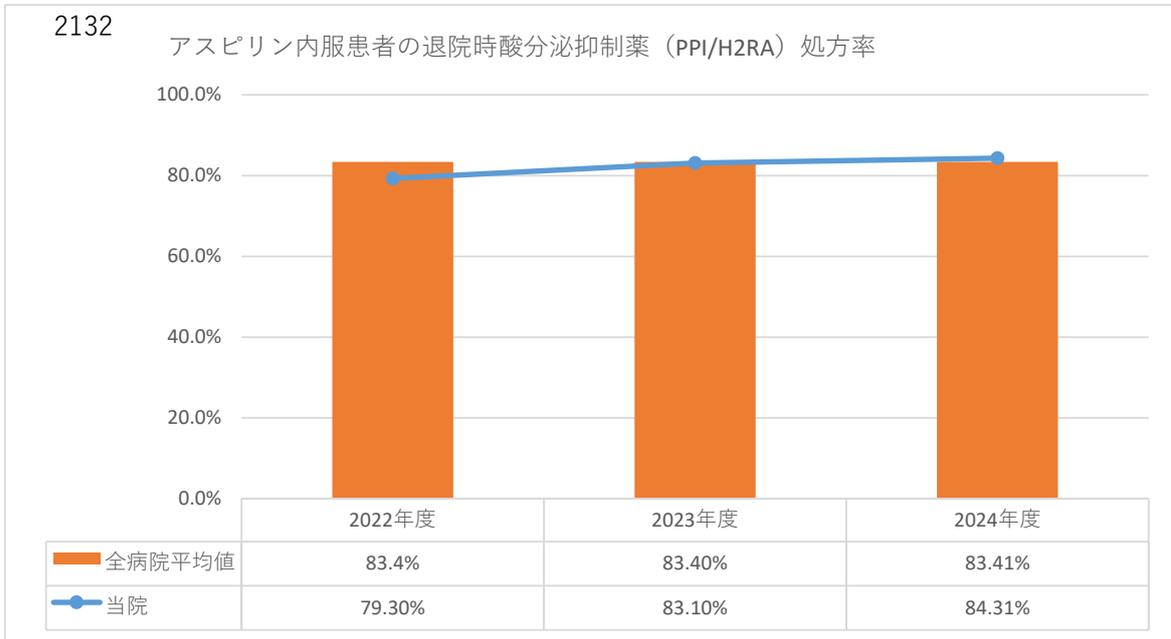
意義 急性膵炎においては、診断、重症度判定のため造影CT検査を施行することが勧められている。

計算方法 分母 急性膵炎で退院した症例

分子 分母のうち、入院日から2日以内に造影CTが施行された症例

# 31

2132



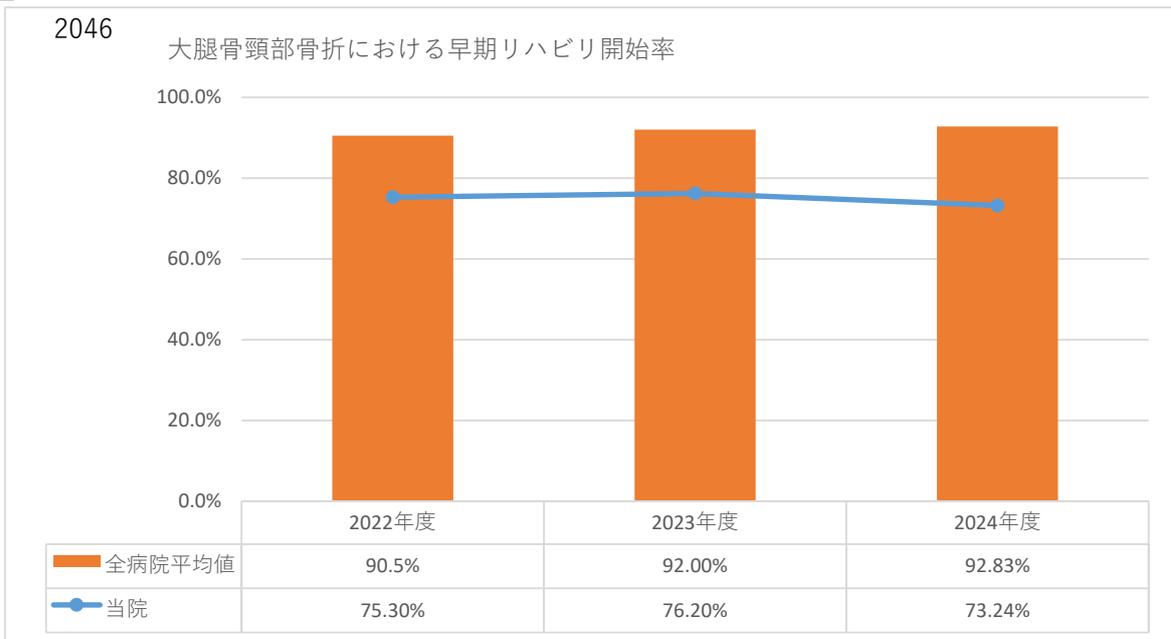
意義 治療内容をみるプロセス指標

計算方法 分母 退院時にアスピリン内服薬が処方されている18歳以上の患者

分子 分母のうち退院時に酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）が退院時に処方された症例

# 32

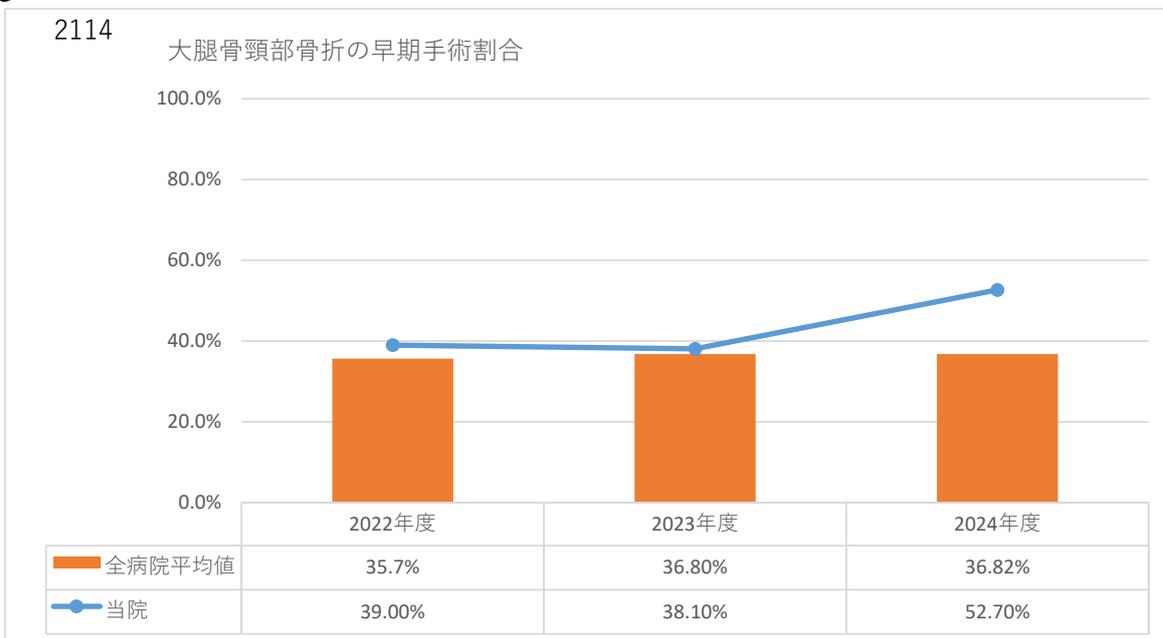
2046



意義 機能回復においてリハビリを早期に始めることが重要である。

計算方法 分母 大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

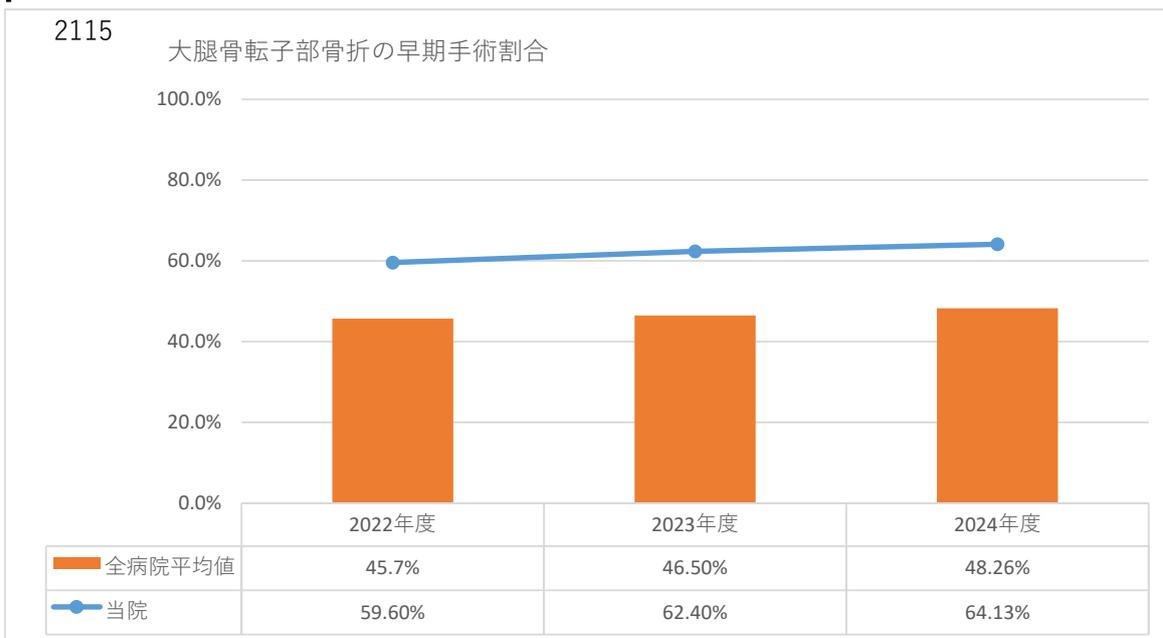
分子 分母のうち、大腿骨頸部手術後3日以内にリハビリを実施した症例



意義 大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折は、ガイドラインではできる限り早期の手術を推奨されています。

計算方法 分母 大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた症例

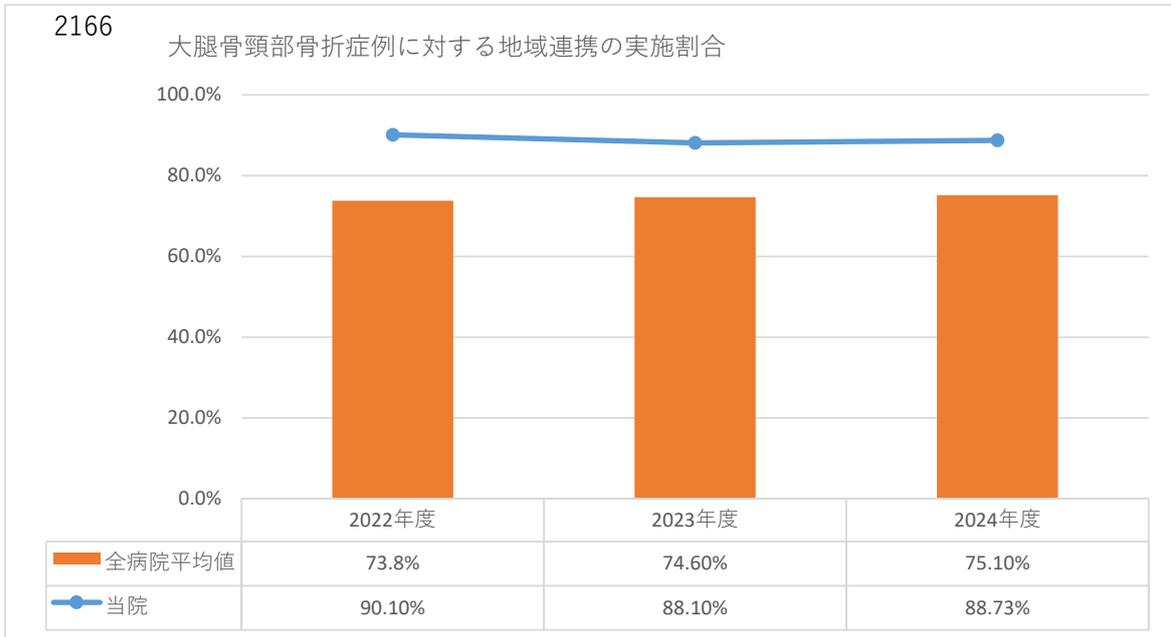
分子 分母のうち、入院2日以内に手術を受けた症例数



意義 大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折は、ガイドラインではできる限り早期の手術を推奨されています。

計算方法 分母 大腿骨転子部骨折で入院し、大腿骨折の手術を受けた症例

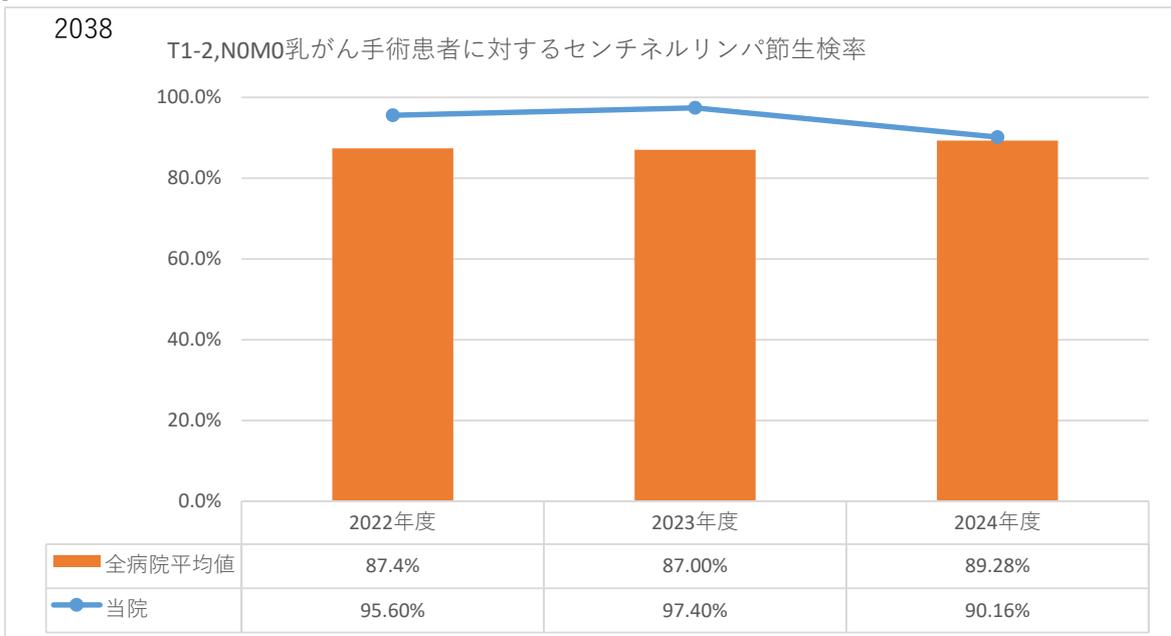
分子 分母のうち、入院2日以内に手術を受けた症例数



意義 当院では地域の医療機関との医療連携を推進しており、リハビリ転院を積極的に進めている。

計算方法 分母 大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた症例

分子 分母のうち、地域連携に関する算定のある症例



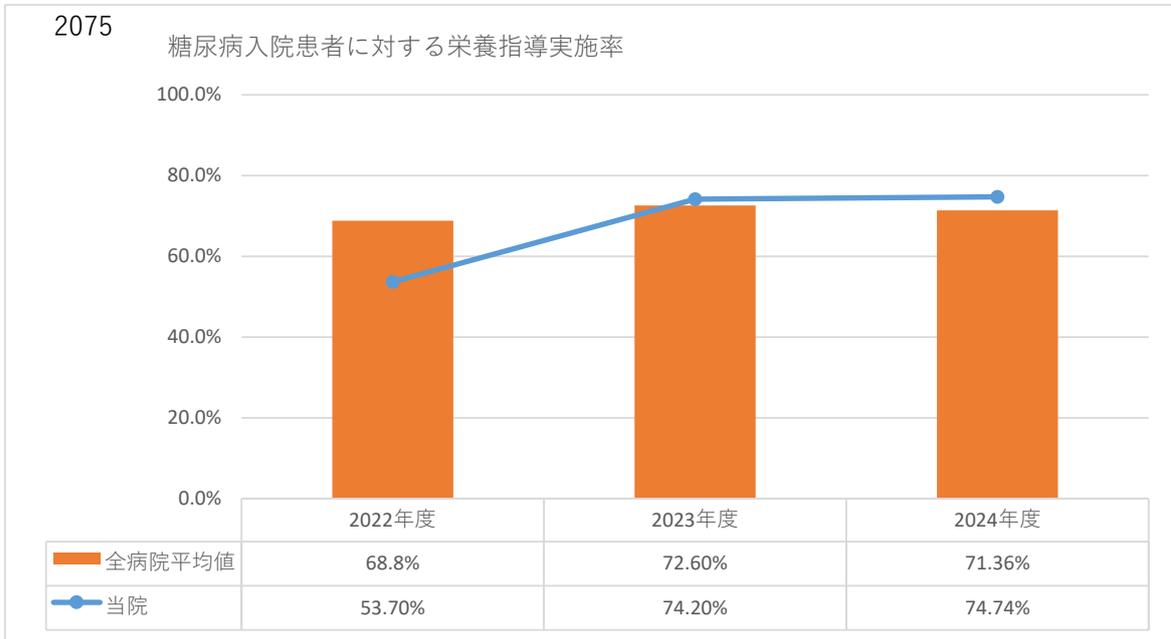
意義 センチネルリンパ節生検結果に基づいて腋窩リンパ節郭清の必要性を判断する治療法であり、現時点での標準的治療と考えられています。

計算方法 分母 T1-2,N0M0の乳がん(初発)で入院して手術を施行した症例数

分子 分母のうち、センチネルリンパ節生検が実施された症例数

37

2075



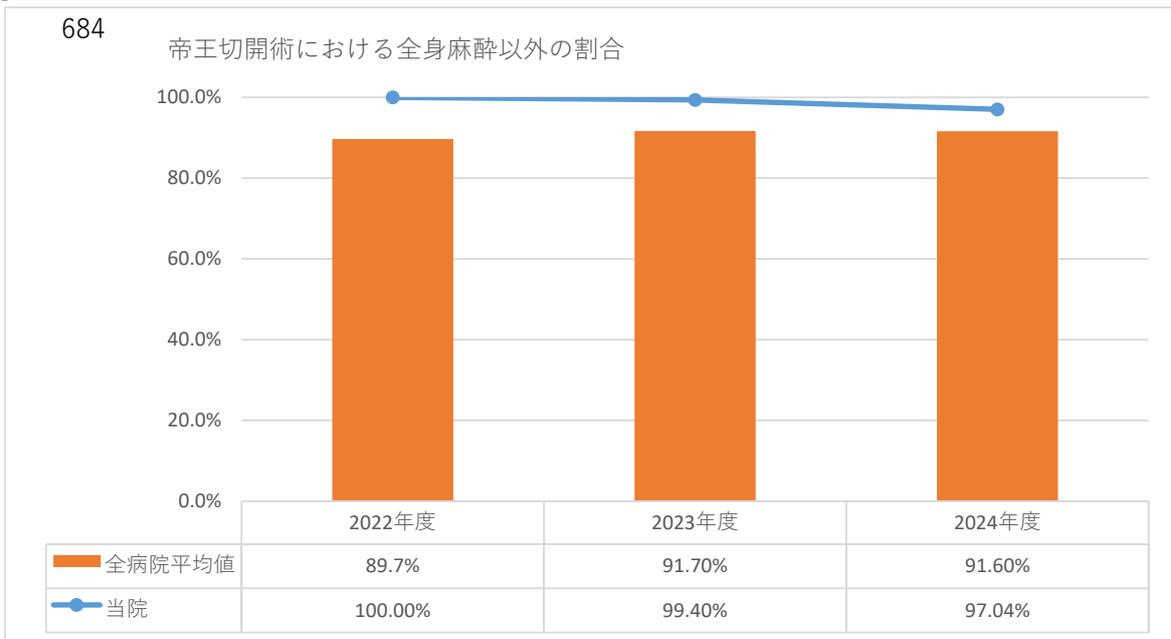
意義 プロセス指標 処置実施割合

計算方法 分母 入院時の病名に糖尿病のある症例

分子 分母のうち栄養指導を行った症例

38

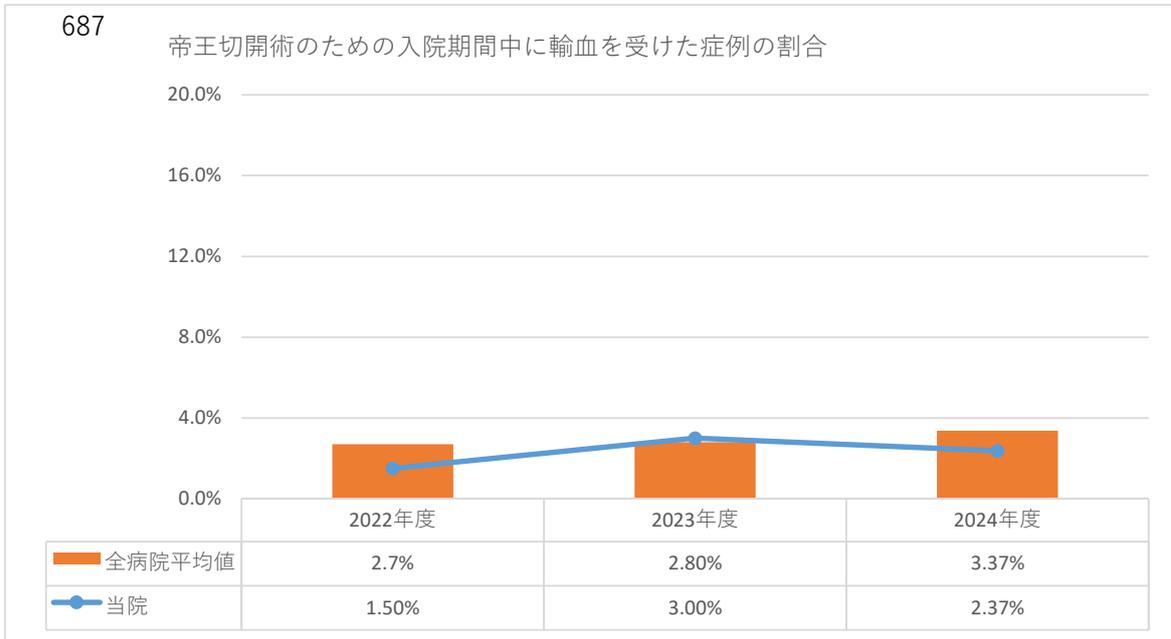
684



意義 帝王切開のときの麻酔は、全身麻酔よりも硬膜外麻酔や脊椎麻酔などのほうが母児ともに安全である。

計算方法 分母 帝王切開術を受けた症例

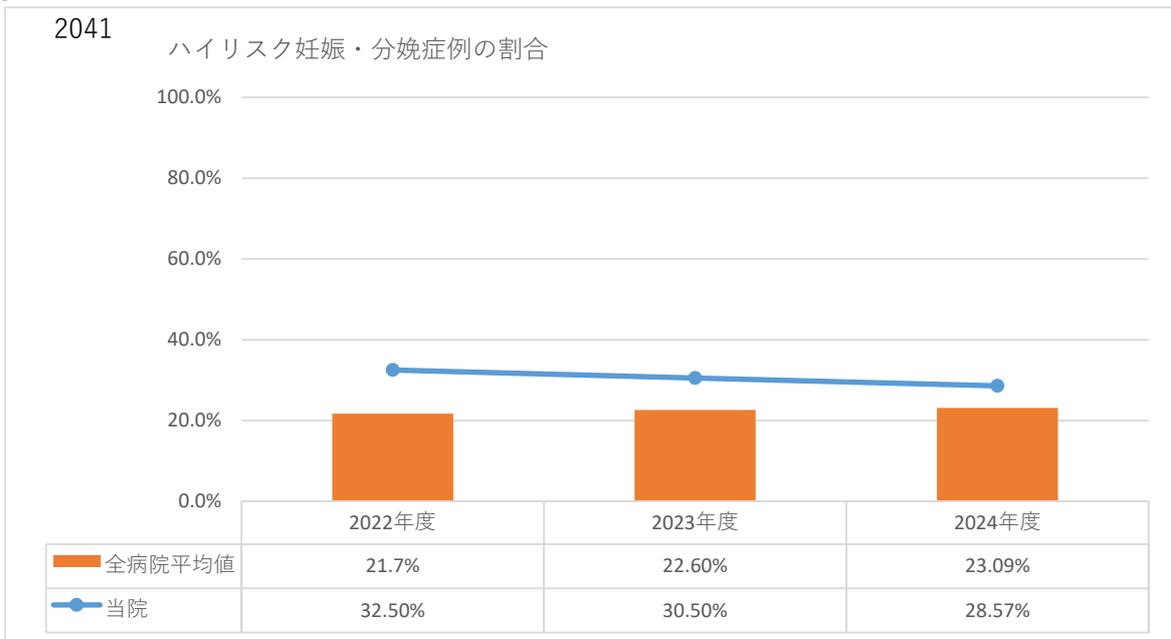
分子 分母のうち、全身麻酔以外の症例



意義 出血は周産期の生命を脅かし得る。妊産婦死亡の主要な原因である。

計算方法 分母 帝王切開術を受けた症例

分子 分母のうち、赤血球輸血を受けた症例

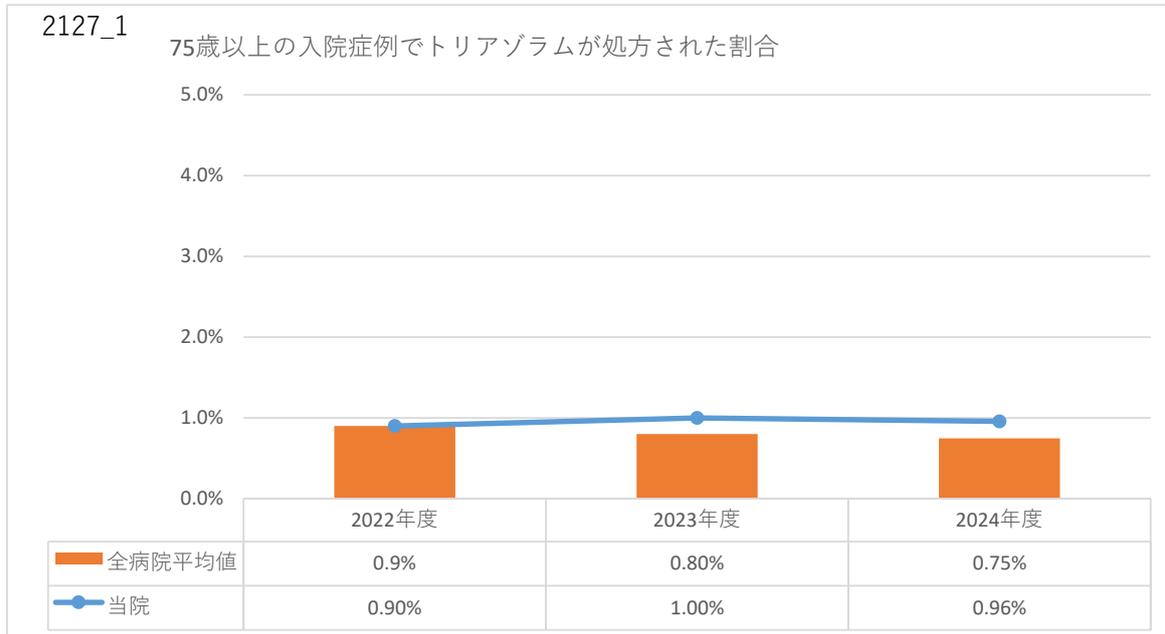


意義 周産期における二次・三次医療機関としての役割を見る

計算方法 分母 妊娠あるいは分娩に関連する疾病の治療・分娩のために入院した患者

分子 分母のうち、ハイリスク妊娠・分娩管理加算を算定された症例

## 41 2127\_1

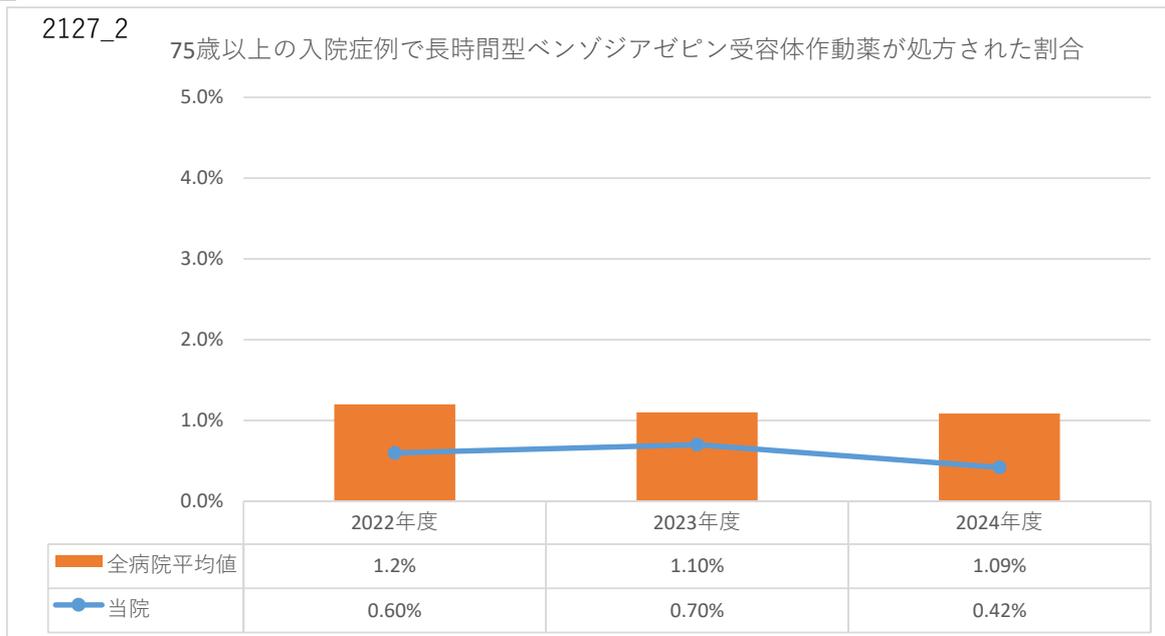


意義 薬物依存性や副作用の観点から適正使用が求められる薬剤です

計算方法 分母 75歳以上の入院症例

分子 トリアゾラムが処方された症例

## 42 2127\_2



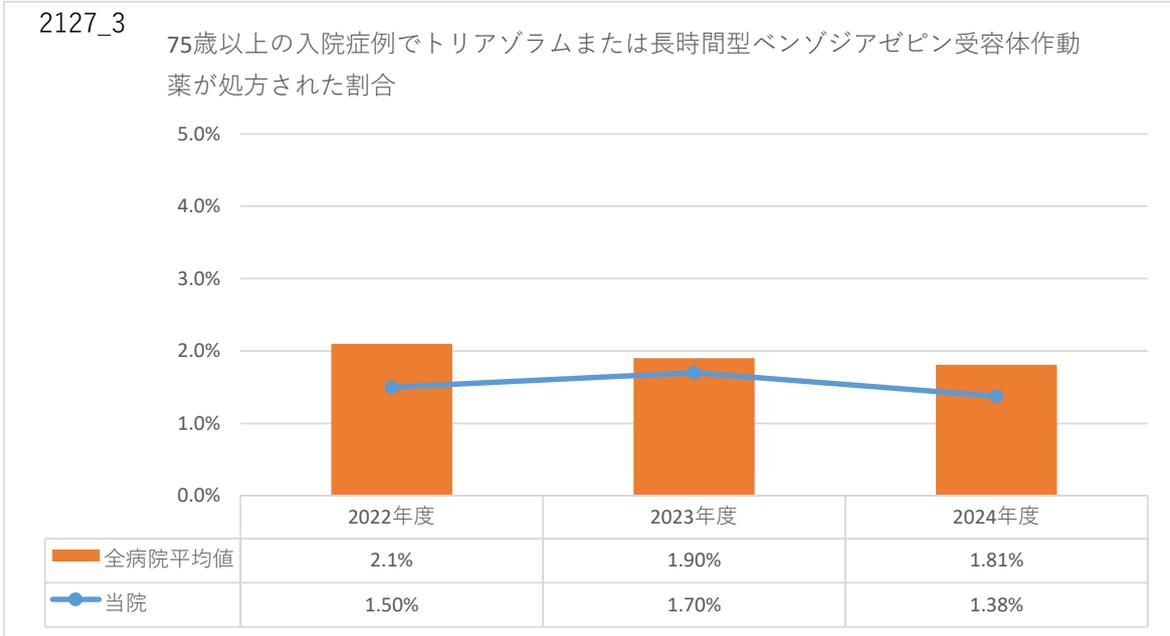
意義 薬物依存性や副作用の観点から適正使用が求められる薬剤です

計算方法 分母 75歳以上の入院症例

分子 長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

43

2127\_3



意義 高齢者の安全な薬物療法

計算方法 分母 75歳以上の入院症例

分子 トリアゾラムまたは長時間型ベンゾジアゼピン受容体作動薬が処方された症例

44

2191



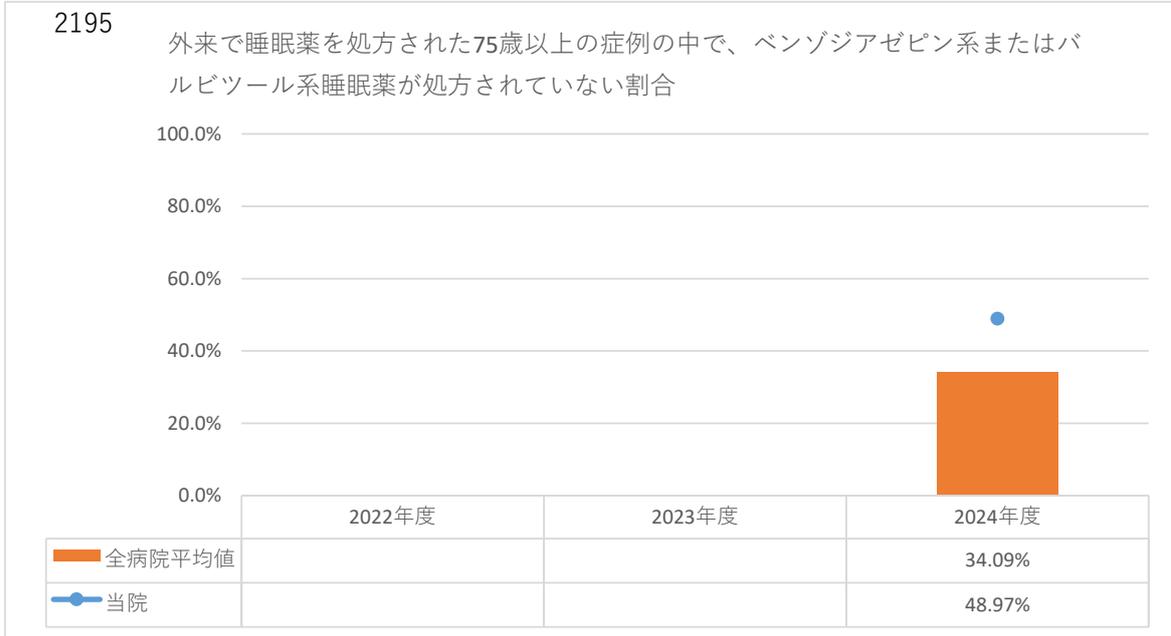
意義 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 において、抗精神病薬は FGA（定型抗精神病薬）よりも第二世

計算方法 分母 外来にて経口抗精神病薬処方がされた人月

分子 分母のうち外来にて経口定型抗精神病薬処方がされていない人月

# 45

2195



意義

計算方法 分母 外来で経口睡眠薬を処方された75歳以上の入月  
 分子 分母のうち、外来でベンゾジアゼピン系またはバルビツール系睡眠薬処方がされていない入月

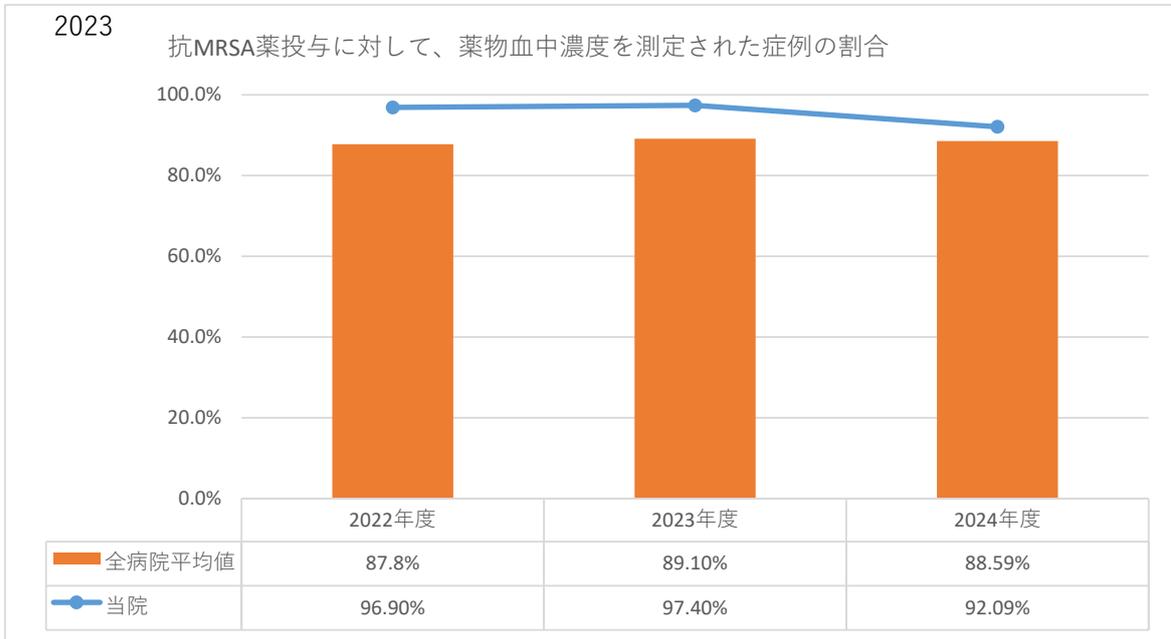
# 46

2196



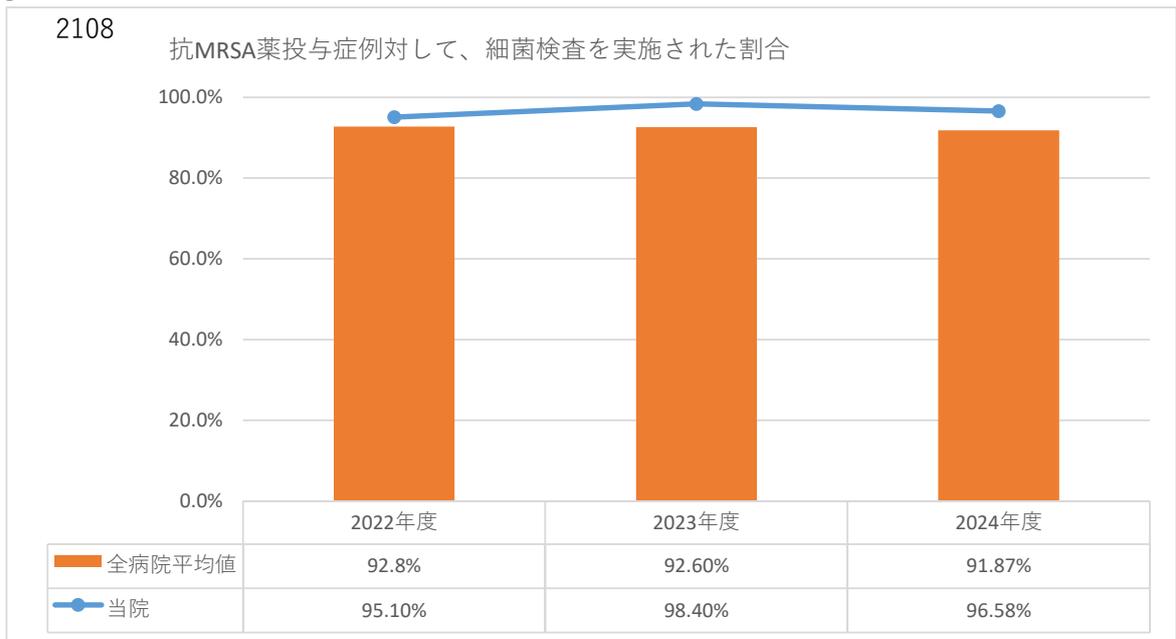
意義

計算方法 分母 外来で睡眠薬の処方のある症例数（入月）  
 分子 分母のうち、睡眠薬の処方が単剤または2剤である症例数（入月）



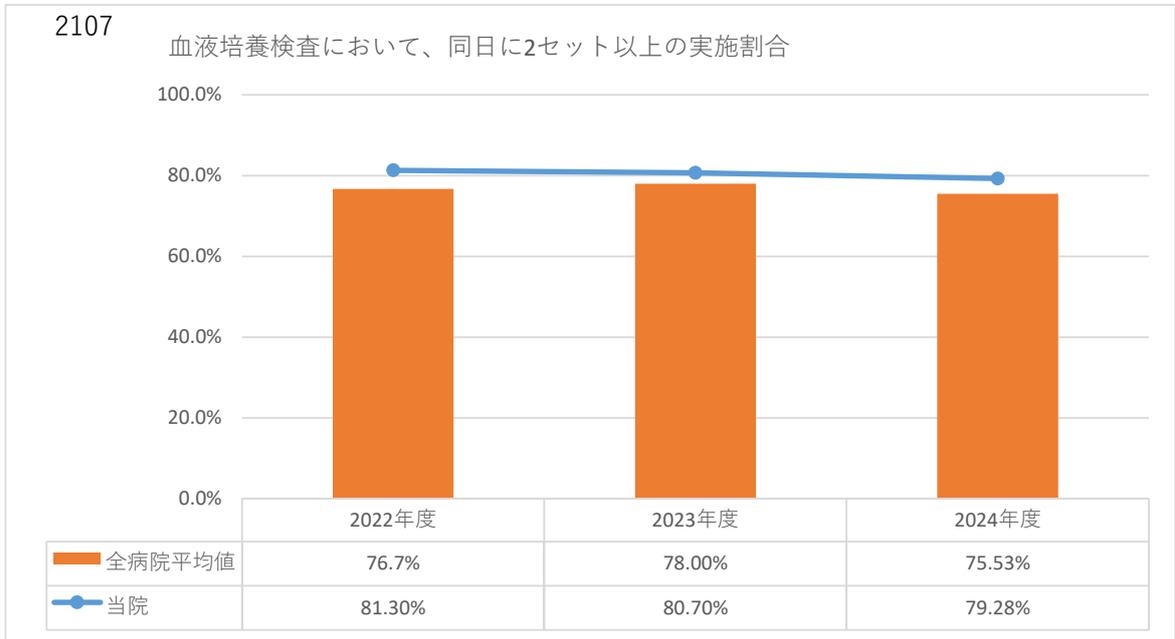
意義 抗MRSA薬の使用に際し、有効血中濃度の維持、副作用の抑制、耐性化の回避のため、治療薬物モニタリング（TDM）が重要である。

計算方法 分母 TDMを行うべき抗MRSA薬を投与された症例数  
分子 分母のうち、薬物血中濃度を測定された症例



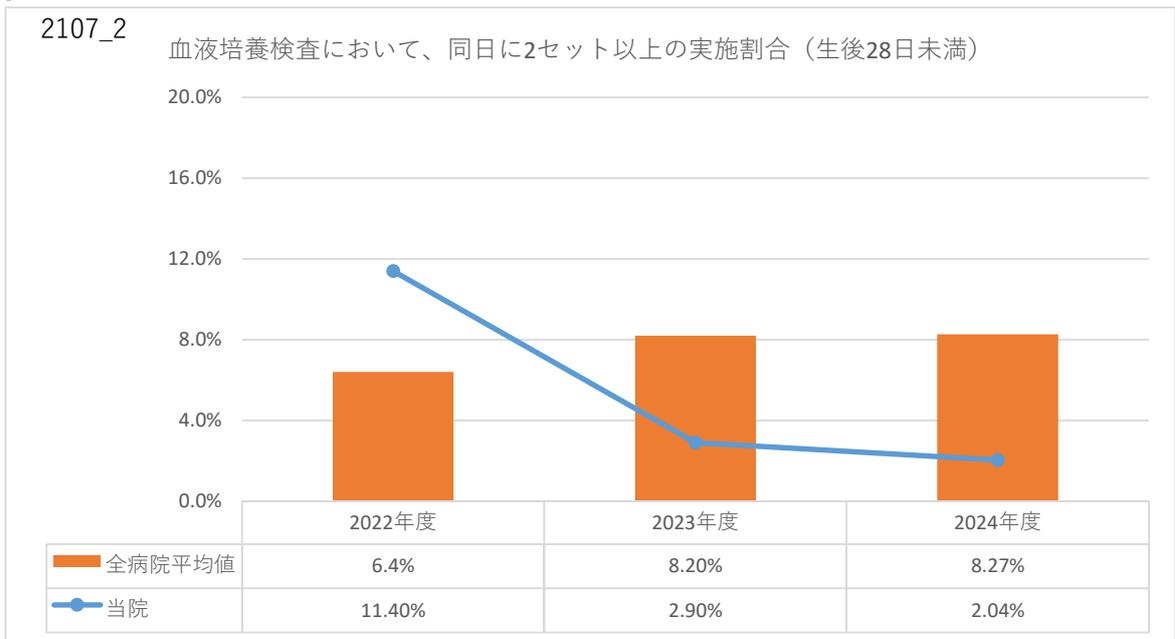
意義 抗MRSA薬使用時は、抗MRSA薬および他の抗菌薬に対する感受性（耐性）の確認が報告されている。

計算方法 分母 抗MRSA薬を投与された症例数  
分子 分母のうち、細菌検査を測定された症例



意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

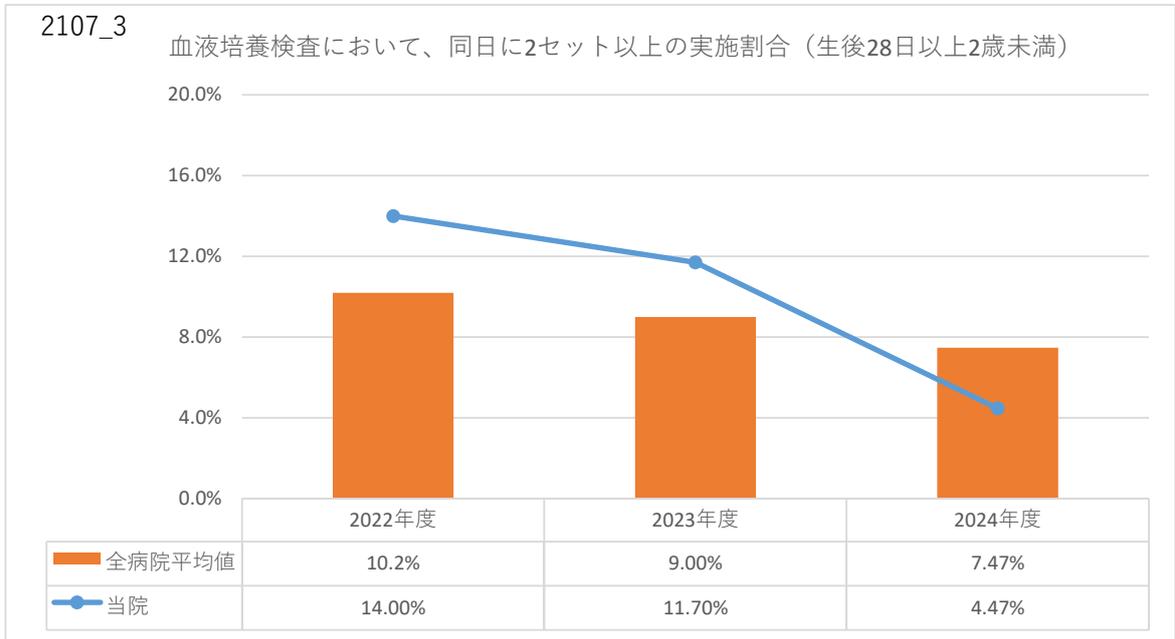
計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）  
分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）



意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）（実施日が生後28日未満）  
分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

51 2107\_3

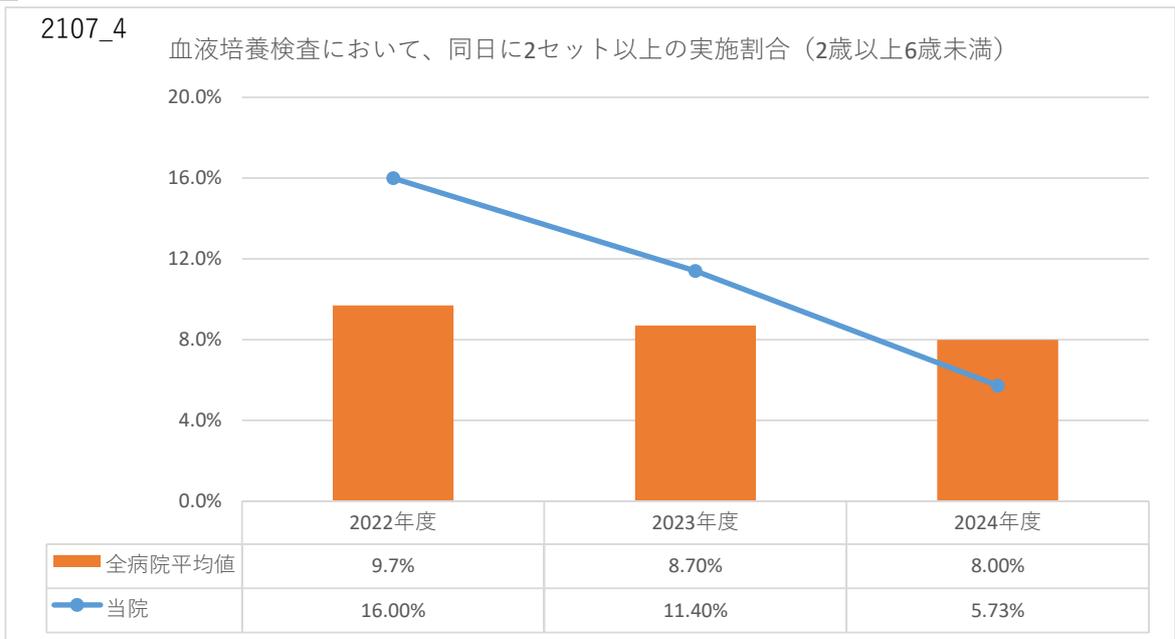


意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）（実施日が生後28日以上2歳未満）

分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

52 2107\_4

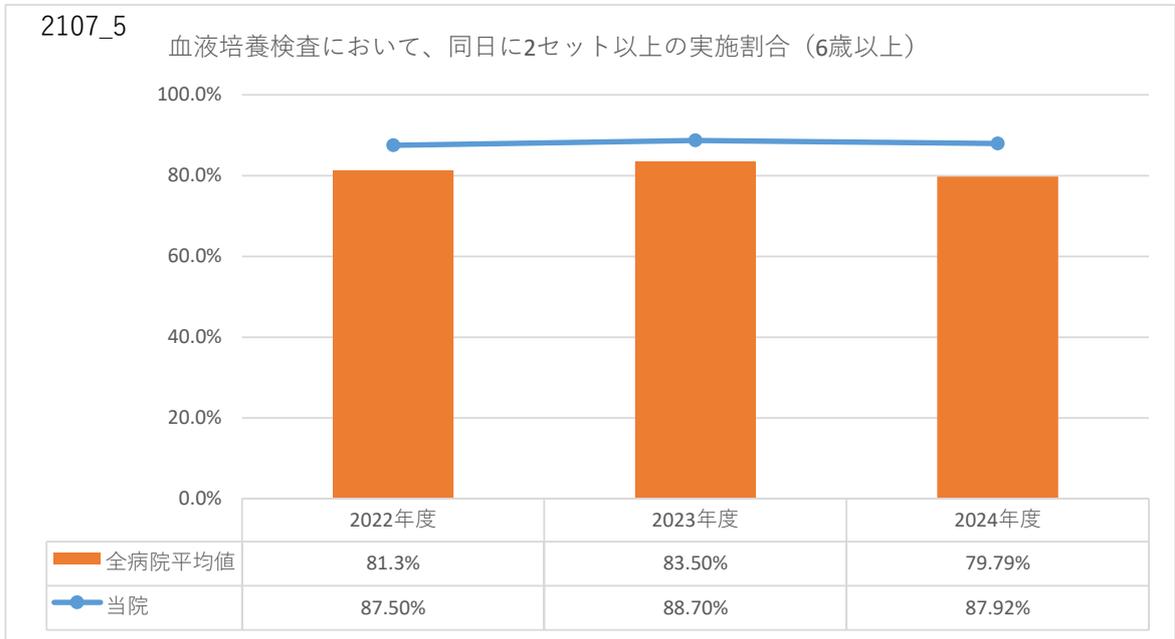


意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）（実施日が2歳以上6歳未満）

分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

53 2107\_5



意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている

計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）（実施日が6歳以上）  
 分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

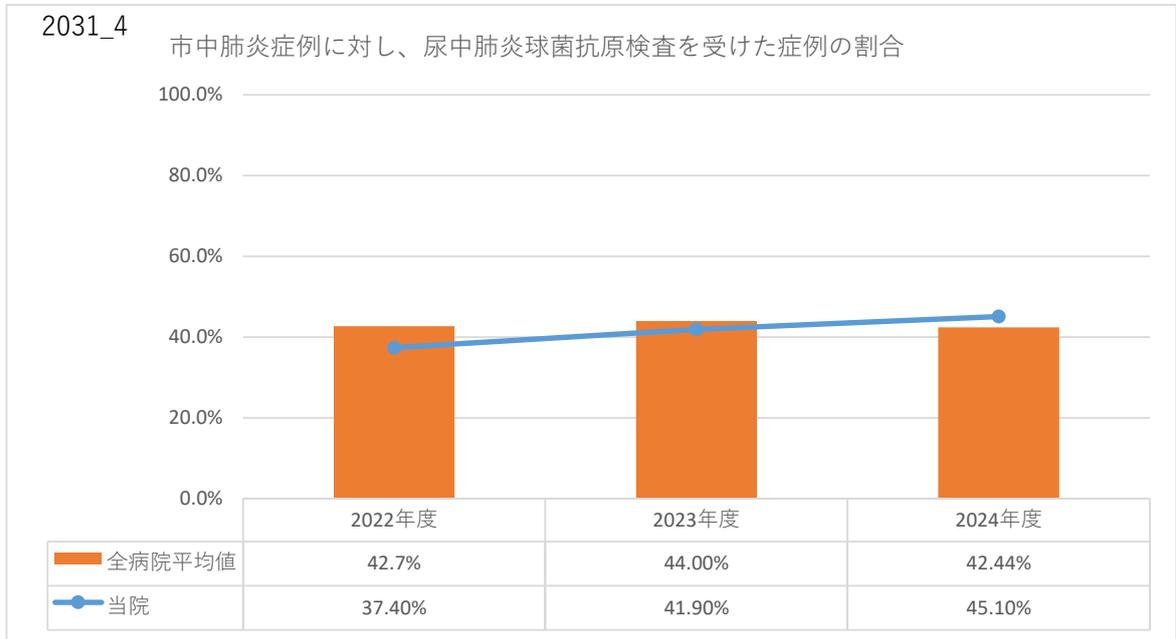
54 2107\_6



意義

計算方法 分母 血液培養のオーダー日数（人日）  
 分子 血液培養のオーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

55 2031\_4

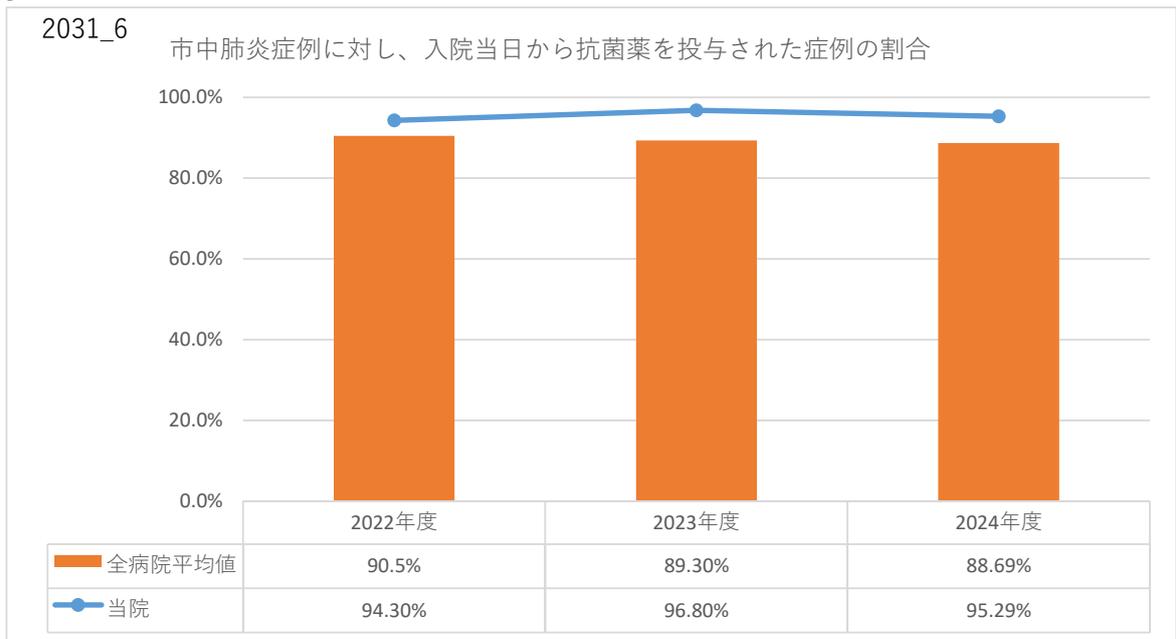


意義 病原微生物の同定は、治療の最適化や耐性菌の対策上重要である。

計算方法 分母 18歳以上の市中肺炎症例

分子 分母のうち、尿中肺炎球菌抗原検査を受けた症例

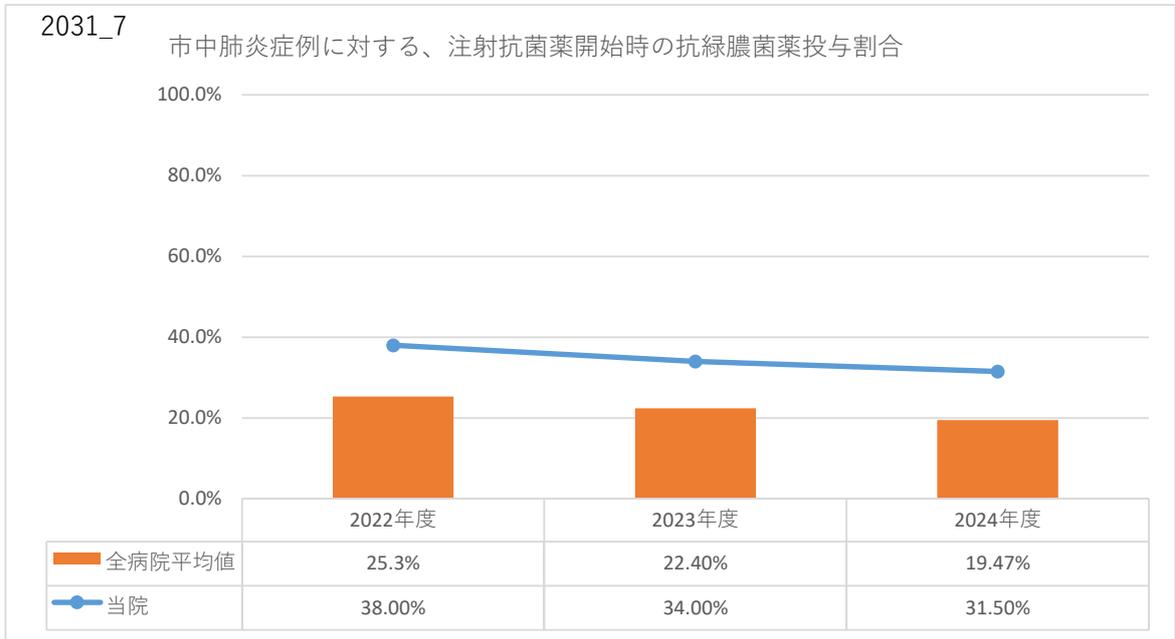
56 2031\_6



意義 早期診断並びに治療の適時性

計算方法 分母 18歳以上の市中肺炎症例

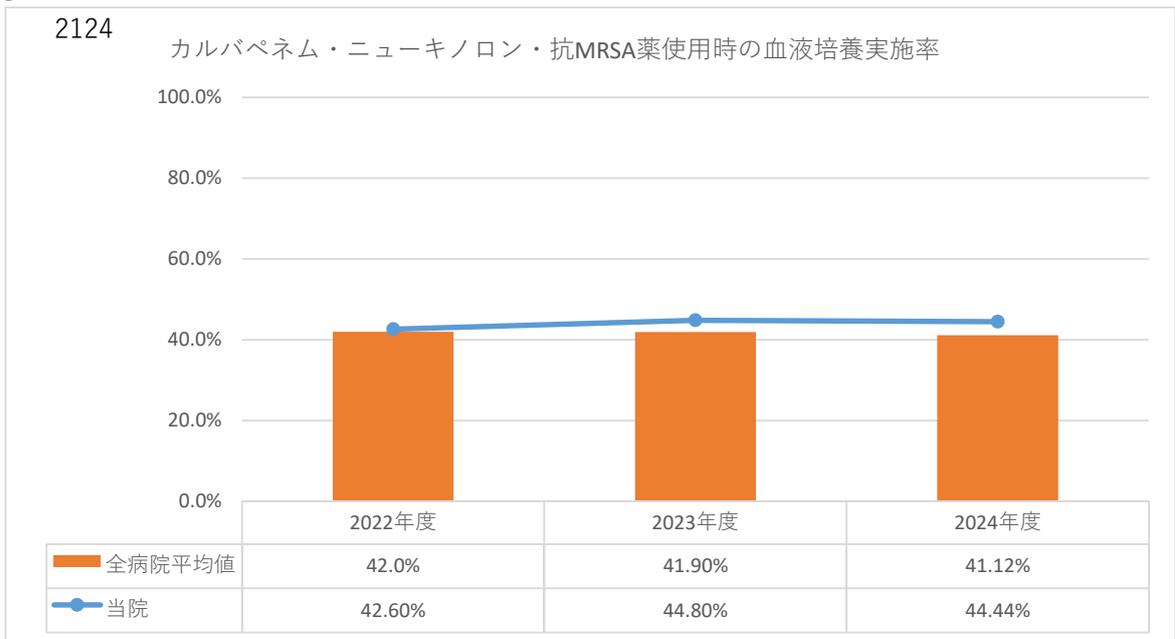
分子 分母のうち、入院当日から抗菌薬を投与された症例



意義 エンピリック治療における抗菌薬の選択

計算方法 分母 市中肺炎症例に対し、入院中に注射抗菌薬を投与された症例数

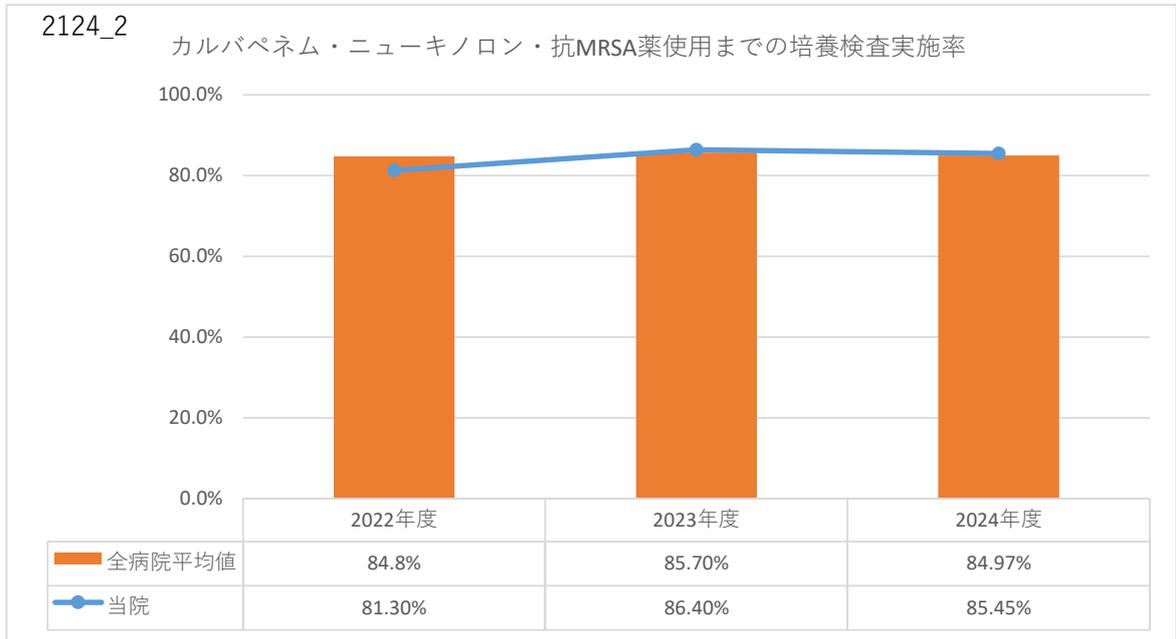
分子 分母のうち、注射抗菌薬の投与初日に、抗緑膿菌薬を処方された症例数



意義 広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

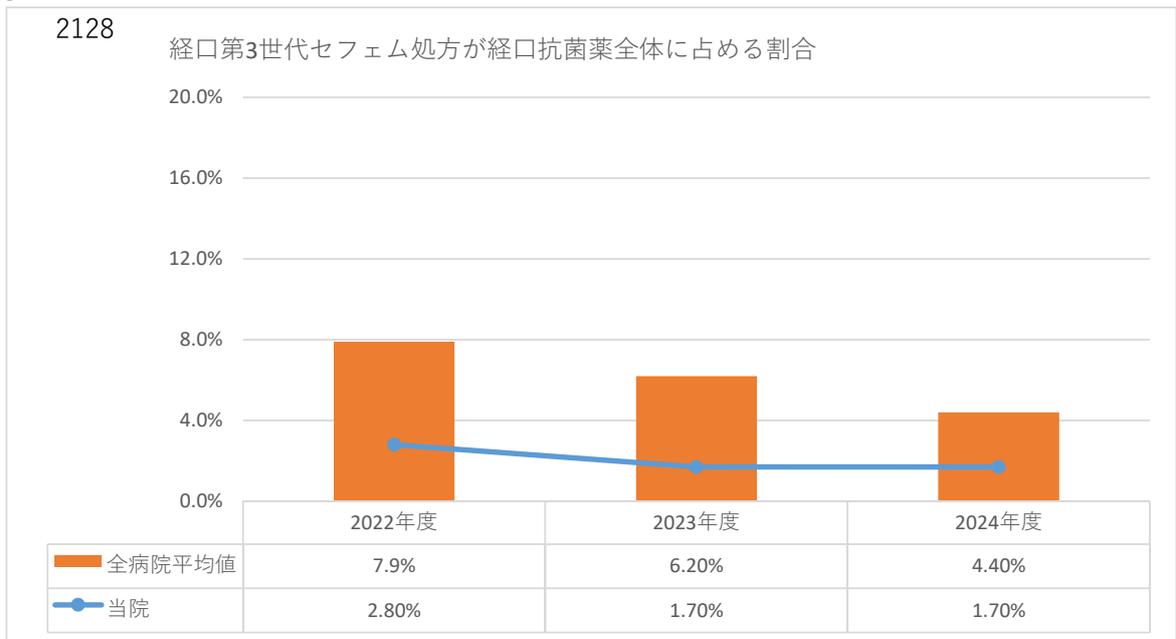
計算方法 分母 カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬、（バンコマイシン内服は除く）投与を開始した入院症例数

分子 分母のうち投与開始初日に血液培養検査を実施した人数



意義 広域抗菌薬を使用する際の望ましいプラクティス

計算方法 分母 カルバペネム系注射薬、ニューキノロン系注射薬、抗MRSA薬（バンコマイシン内服は除く）投与を開始した入院症例数  
分子 分母のうち投与開始初日までに培養検査を実施した人数

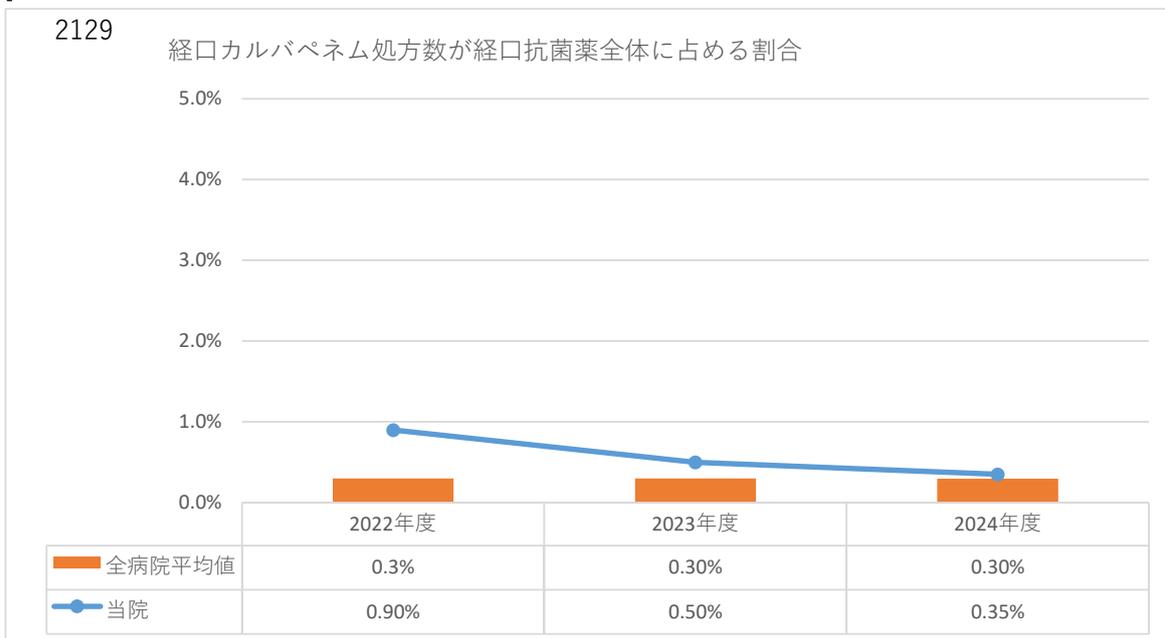


意義 経口第3世代セフェムの削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020年までに（2013年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

計算方法 分母 外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日  
分子 外来にて経口第3世代セフェム処方の含まれる処方が実施された人日

# 61

2129

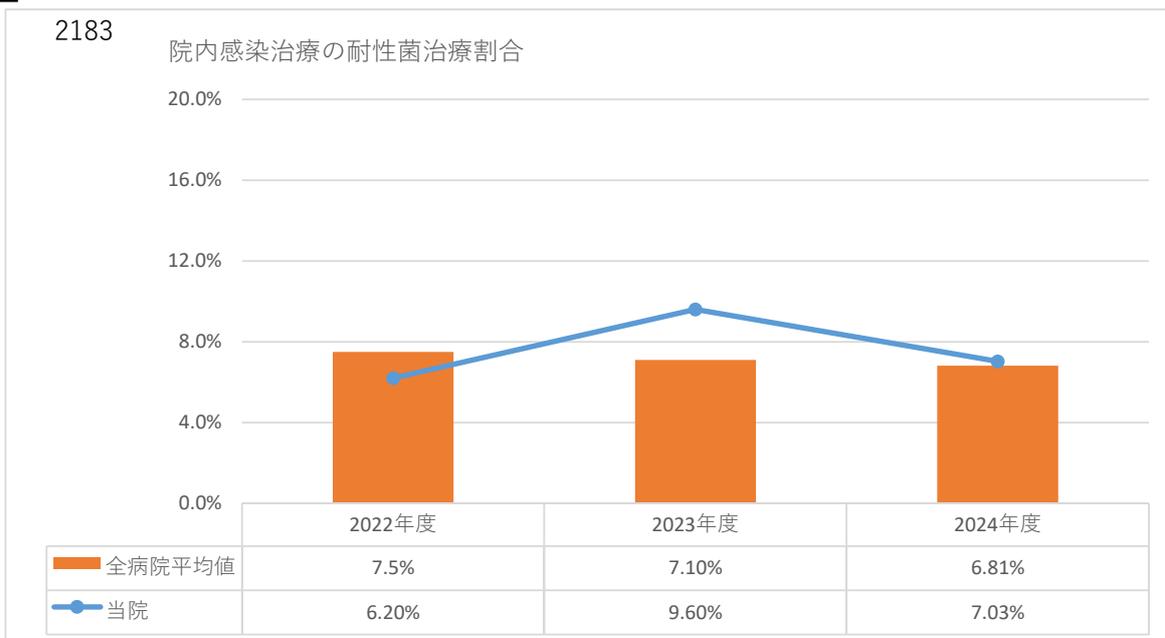


意義 経口カルバペネム系抗菌薬の削減は、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの目標項目である。2020年までに（2013年比）50%削減が成果指標として掲げられている。

計算方法 分母 外来にて経口抗菌薬（抗ウイルス薬、抗真菌薬を除く）の含まれる処方が実施された人日  
分子 外来にて経口カルバペネム処方数の含まれる処方が実施された人日

# 62

2183

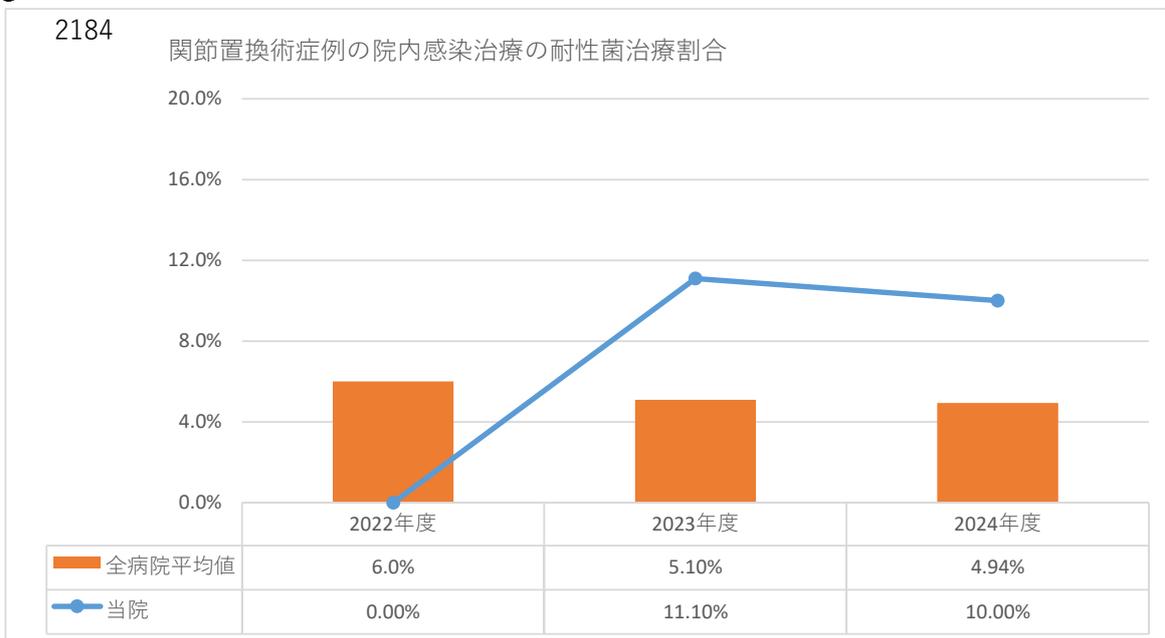


意義 耐性菌発生と耐性菌治療モニタリング。

計算方法 分母 院内発症の7日以上点滴抗菌薬治療症例  
分子 分母のうち、7日以上耐性菌用点滴治療症例

63

2184



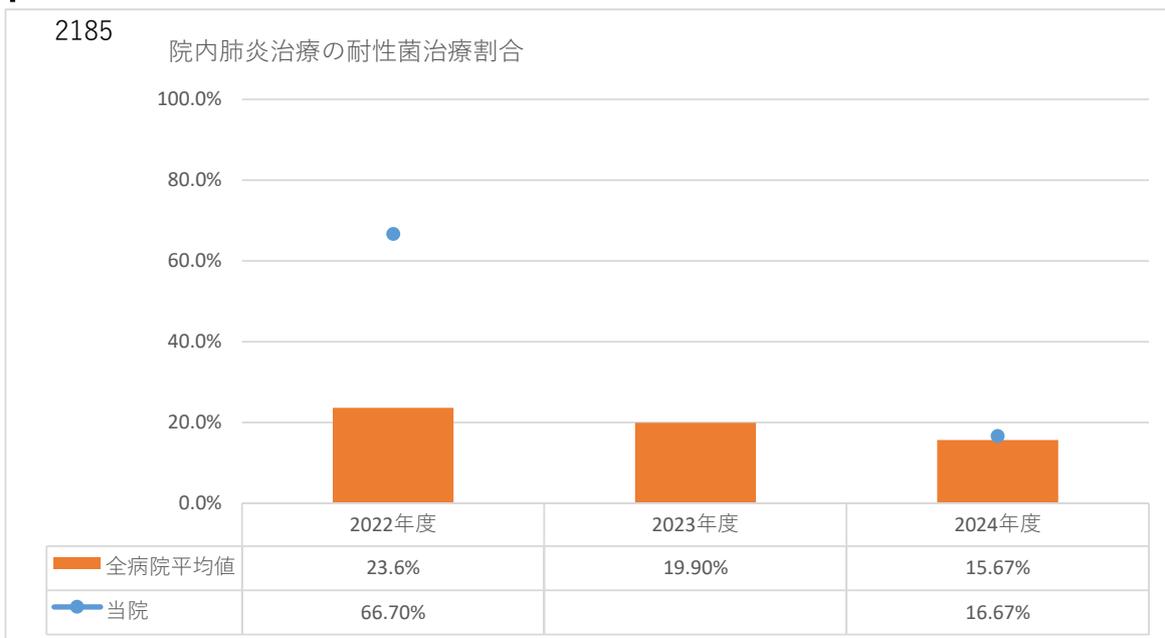
意義 耐性菌発生と耐性菌治療モニタリング。

計算方法 分母 関節置換術実施症例のうち院内発症の7日以上点滴抗菌薬治療症例

分子 分母のうち、7日以上耐性菌用点滴治療症例

64

2185



意義 耐性菌発生と耐性菌治療モニタリング。

計算方法 分母 院内肺炎で7日以上点滴抗菌薬治療症例

分子 分母のうち、7日以上耐性菌用点滴治療症例

65

2193



意義

計算方法 分母 血液培養オーダー日数

分子 血液培養オーダーが1日に2件以上ある日数

66

2194



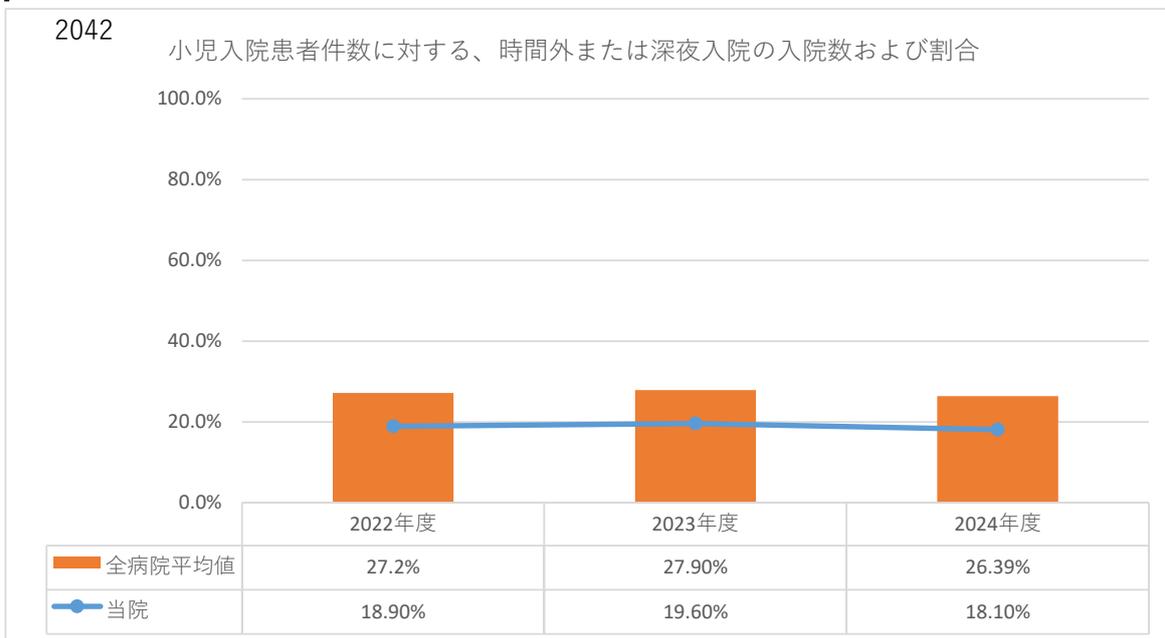
意義

計算方法 分母 広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数

分子 分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数

67

2042



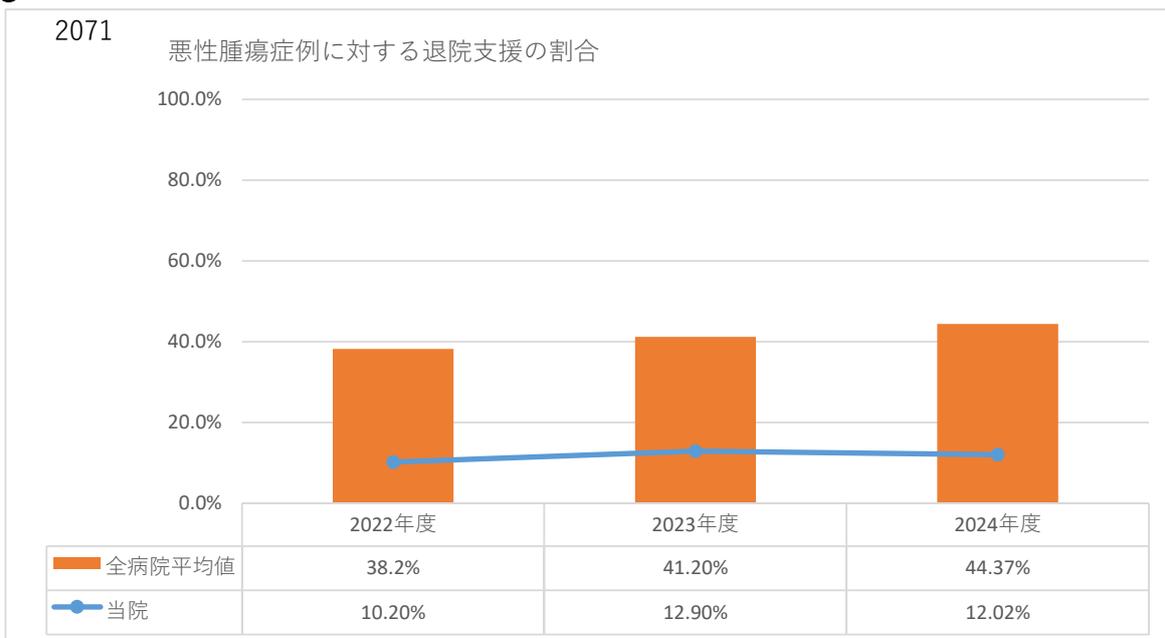
意義 ストラクチャー指標。小児の時間外・深夜救急の受け入れ態勢の数値化。

計算方法 分母 15歳以下の退院症例、院内出生症例を除く

分子 分母のうち、時間外または深夜に緊急入院した症例（分子の数値も指標）

68

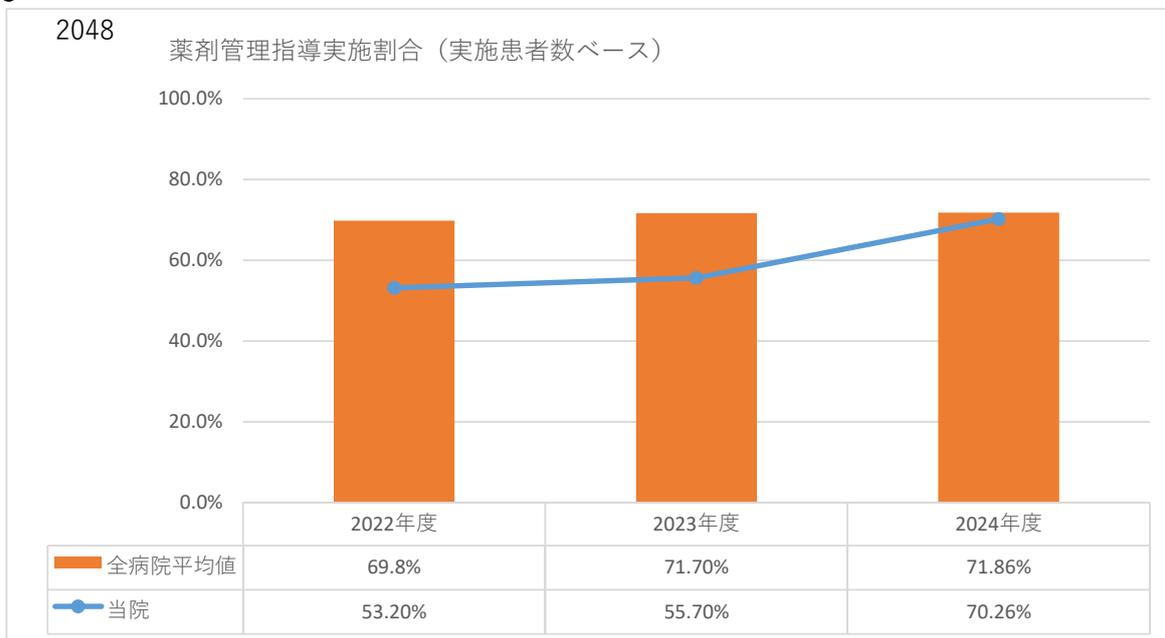
2071



意義 患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

計算方法 分母 悪性腫瘍入院症例数

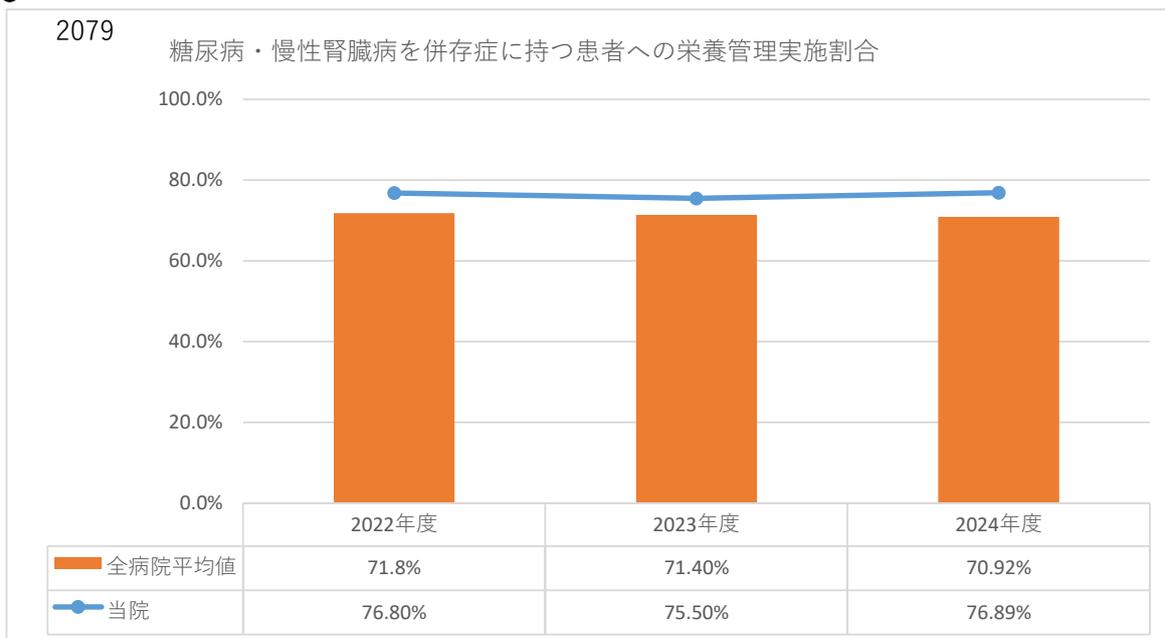
分子 分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例



意義 薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる

計算方法 分母 入院症例数

分子 分母のうち、薬剤管理指導を受けた症例数



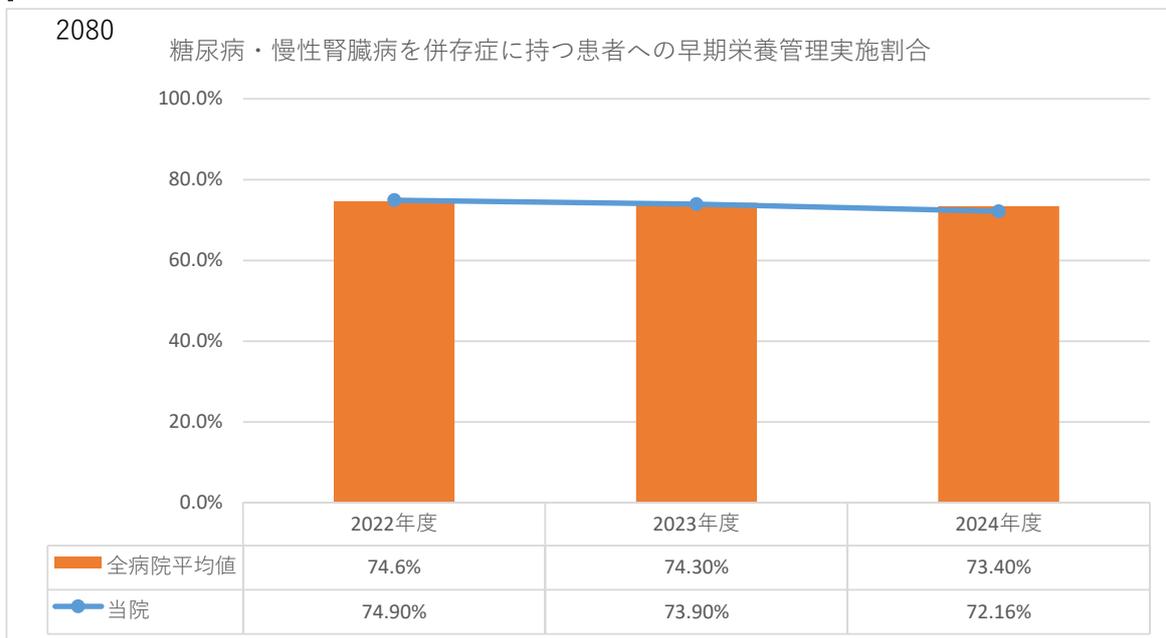
意義 適切な栄養管理の介入

計算方法 分母 18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の食事

分子 分母のうち、特別食加算の算定

# 71

2080



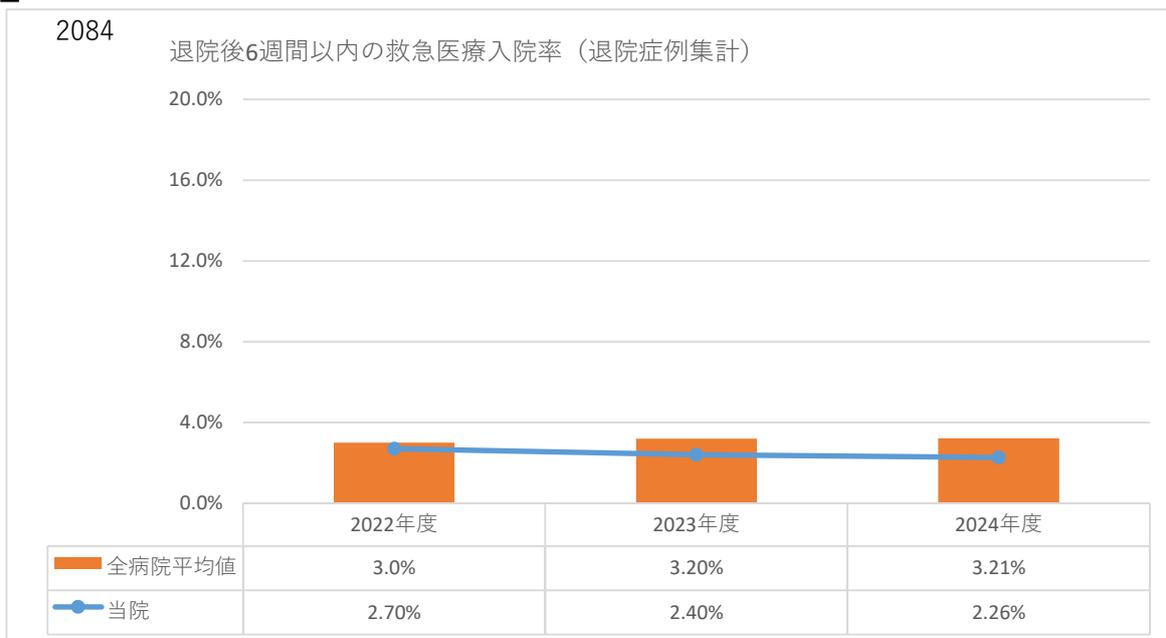
意義 積極的な栄養管理の介入

計算方法 分母 18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病であり、それらへの治療が主目的ではない入院症例の入院翌日までの食事

分子 分母のうち、特別食加算の算定

# 72

2084



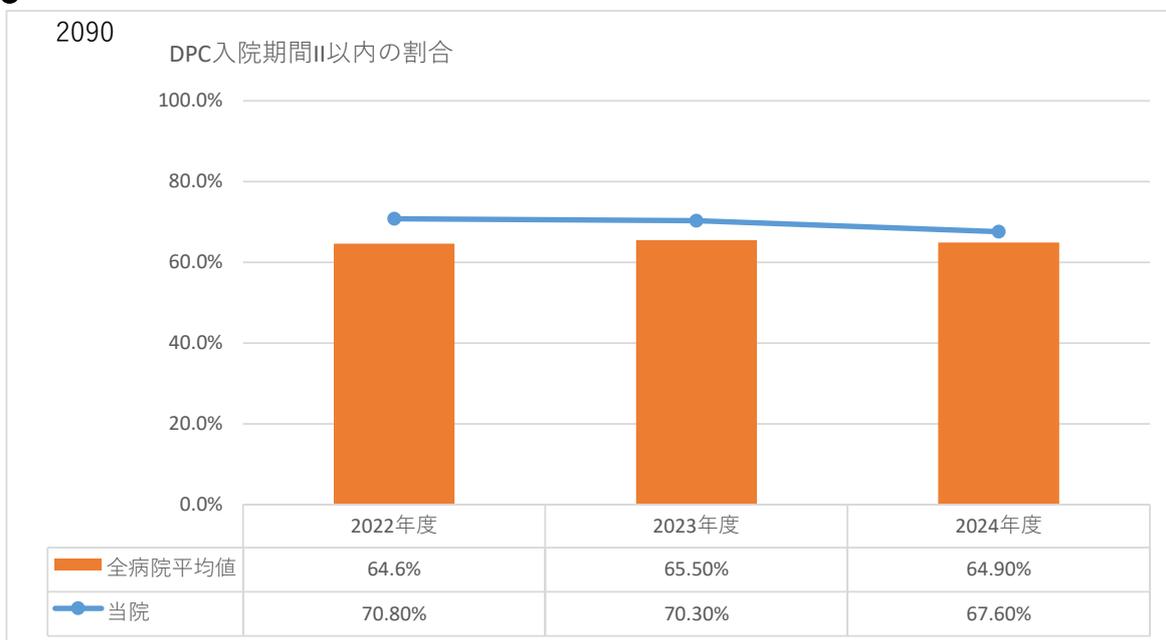
意義 退院した患者さんのうち、6週間以内に予定外の再入院をした割合です。その背景には、前の入院時の治療が不十分であったことや続発する疾病の発生などが考えられます。

計算方法 分母 退院症例数

分子 前回の退院日が42日以内の救急医療入院症例数

# 73

2090



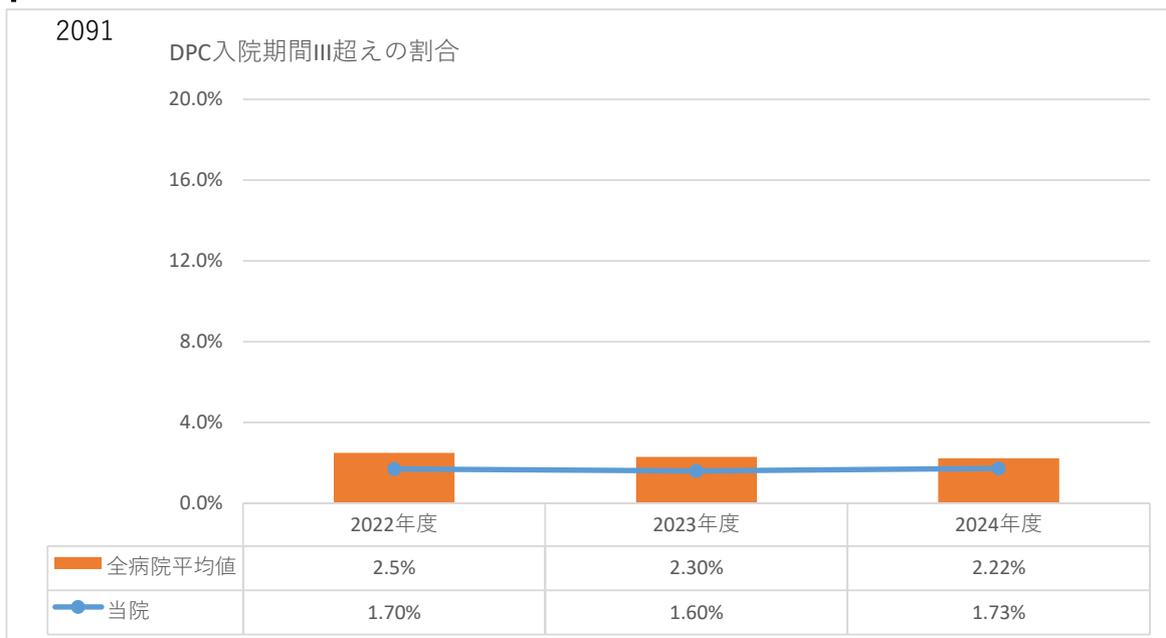
意義 マネジメント

計算方法 分母 退院症例数 (DPC分析対象)

分子 入院期間II以内の退院数

# 74

2091



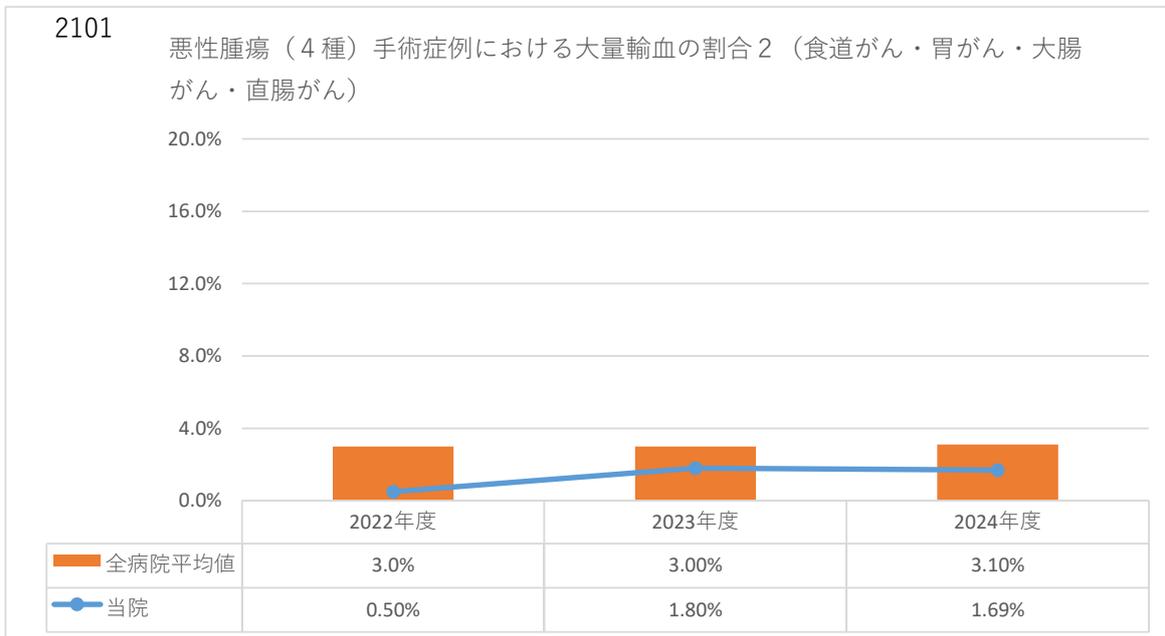
意義 マネジメント

計算方法 分母 退院症例数 (DPC分析対象)

分子 入院期間IIIより長い退院数

# 75

2101



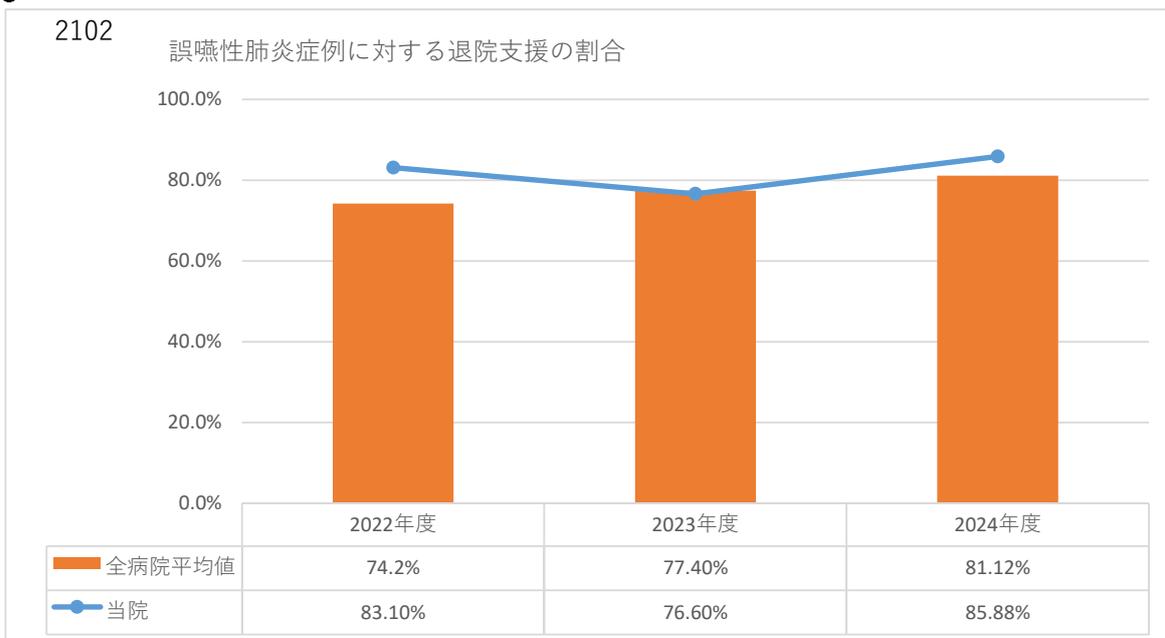
意義 医療の質

計算方法 分母 4大癌・悪性腫瘍に対する手術症例（食道がん・胃がん・大腸がん・直腸がん）

分子 分母のうち、大量に輸血の実施された症例

# 76

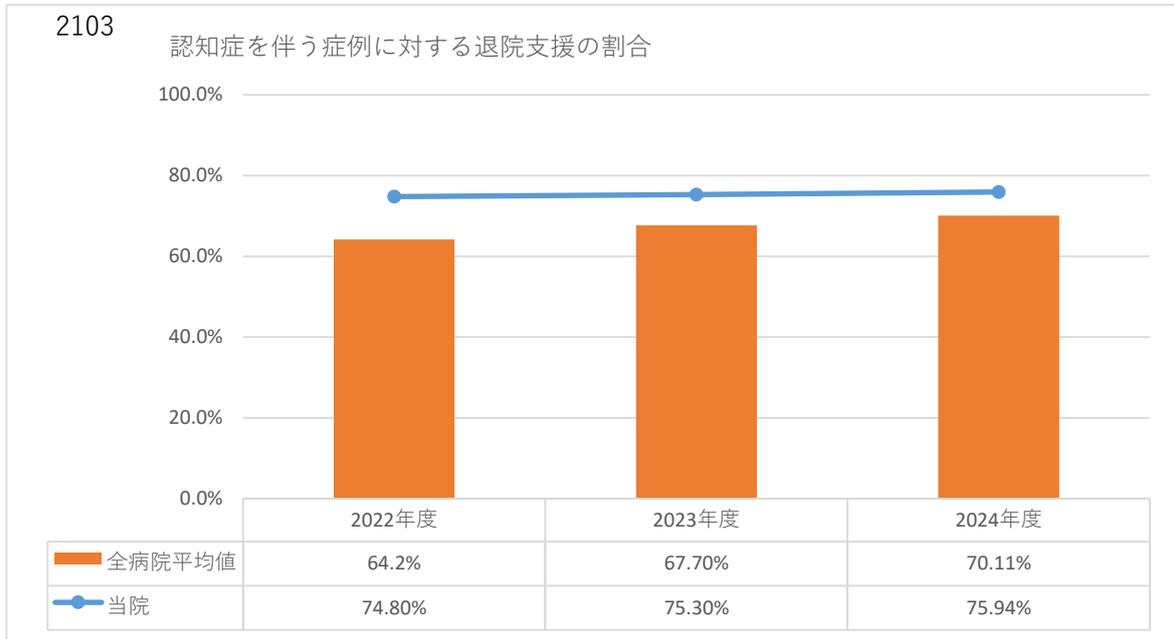
2102



意義 患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

計算方法 分母 誤嚥性肺炎入院症例数

分子 分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例



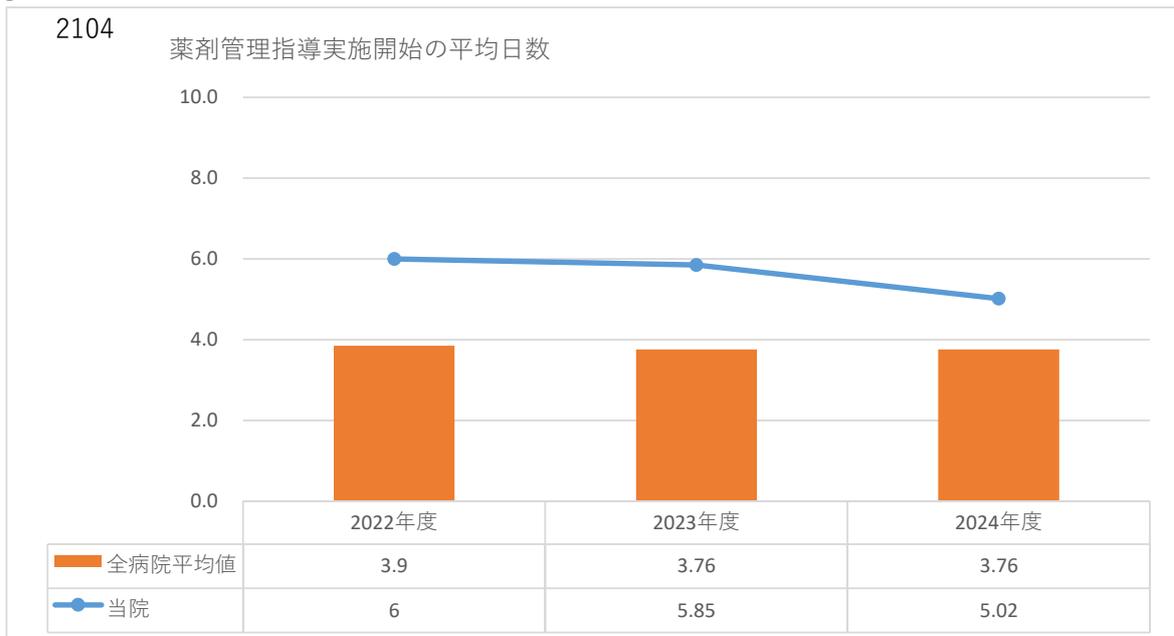
## 意義

患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

## 計算方法

分母 認知症を伴う入院症例数

分子 分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例



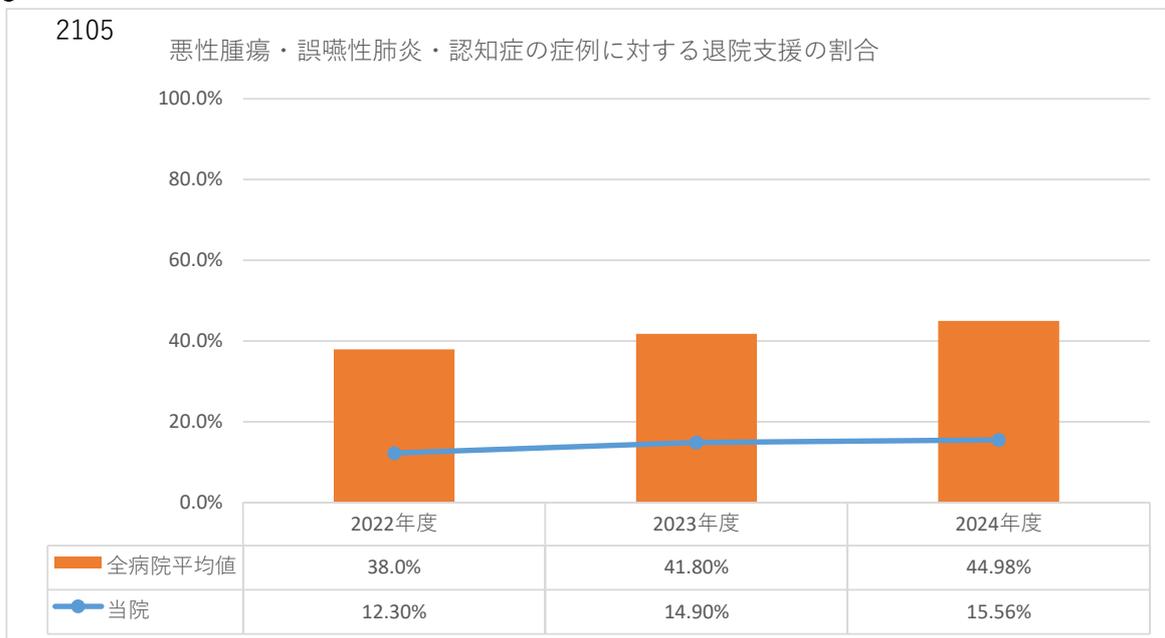
## 意義

薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる。

## 計算方法

分母 入院症例のうち、薬剤管理指導を受けた症例数

分子 分母のうち、入院日から薬剤指導管理実施を最初に算定された日までの日数（入院日を1）



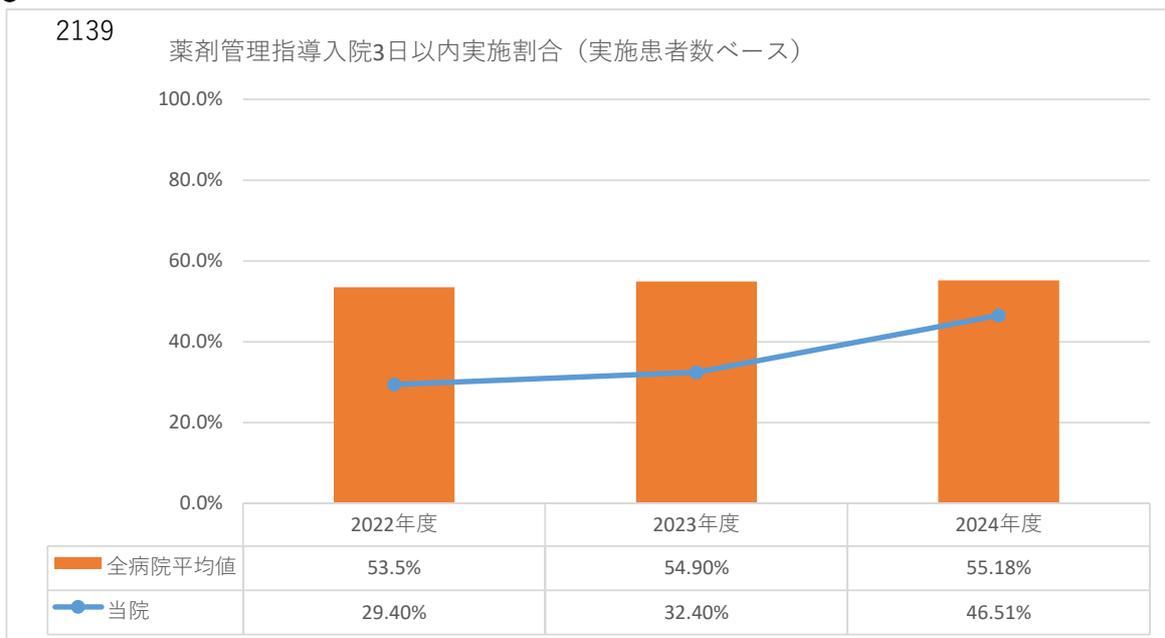
## 意義

患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、病院内での「退院調整」機能が重視されている。退院支援を評価する「退院調整加算」は、平成28（2016）年度診療報酬改定から廃止され、「退院支援加算/入退院支援加算（平成30（2018）年度以降）」が新設された。

## 計算方法

分母 悪性腫瘍・誤嚥性肺炎・認知症いずれかの入院症例数

分子 分母のうち、退院調整加算/退院支援加算/入退院支援加算を算定した症例



## 意義

薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる。

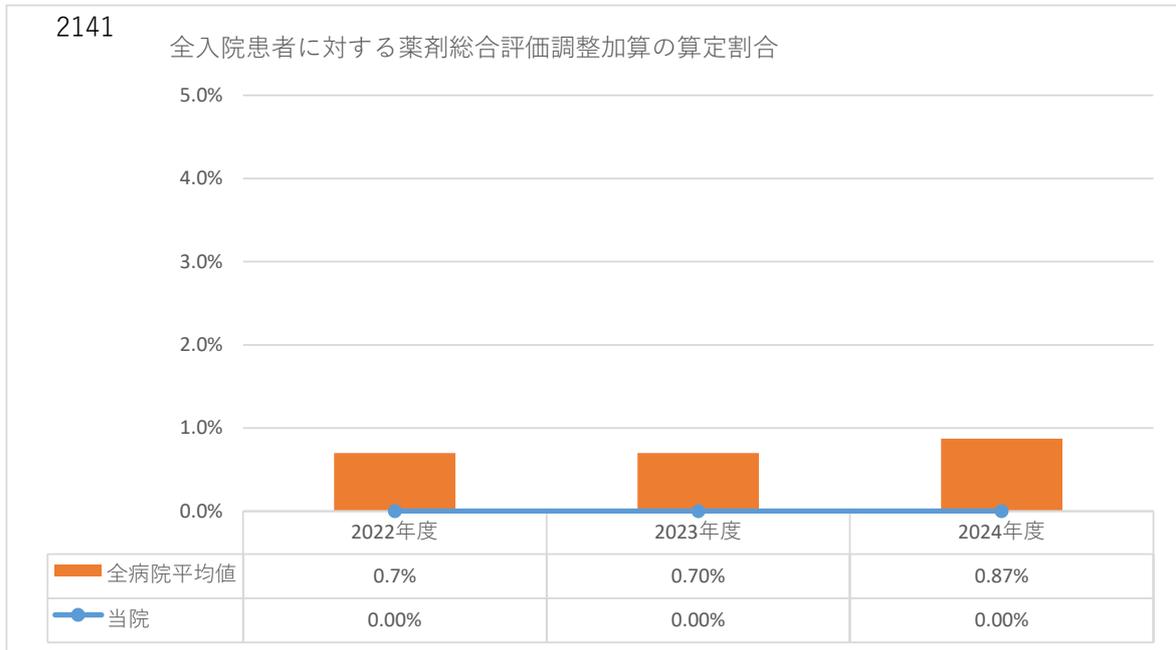
## 計算方法

分母 入院症例数

分子 分母のうち、入院3日以内（入院日を1とする）に薬剤管理指導を受けた症例数

# 81

2141



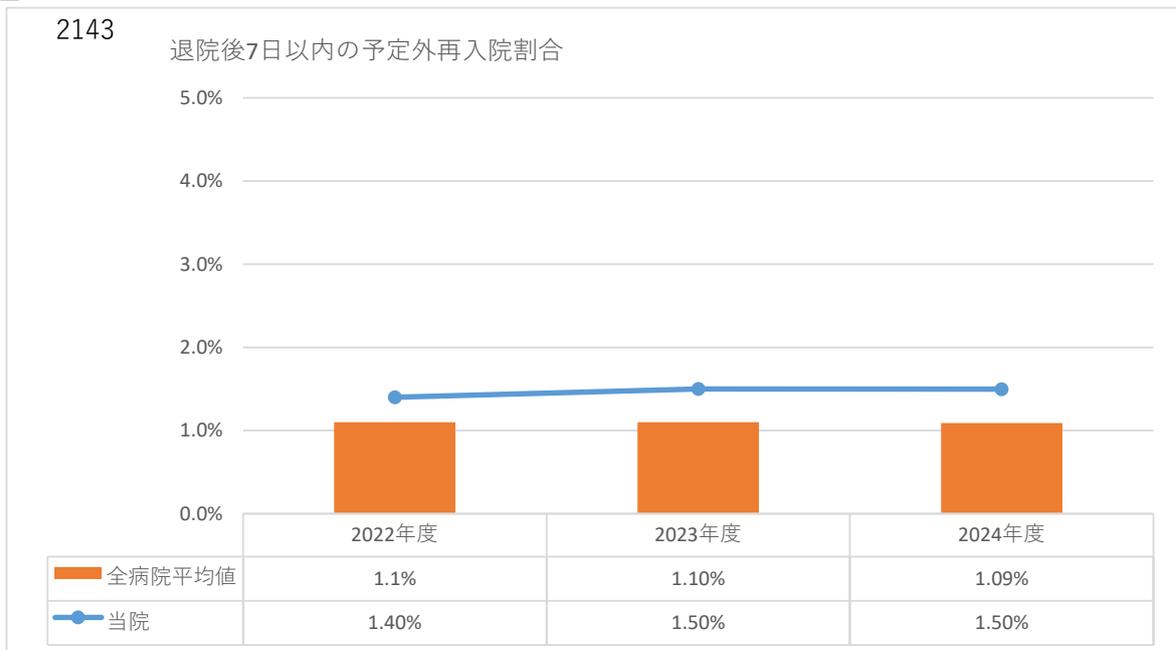
意義 マネジメント

計算方法 分母 解析期間に入退院した症例数（2016年度以降の入院 一般病棟以外も含む）

分子 分母のうち薬剤総合評価調整加算の算定された症例数

# 82

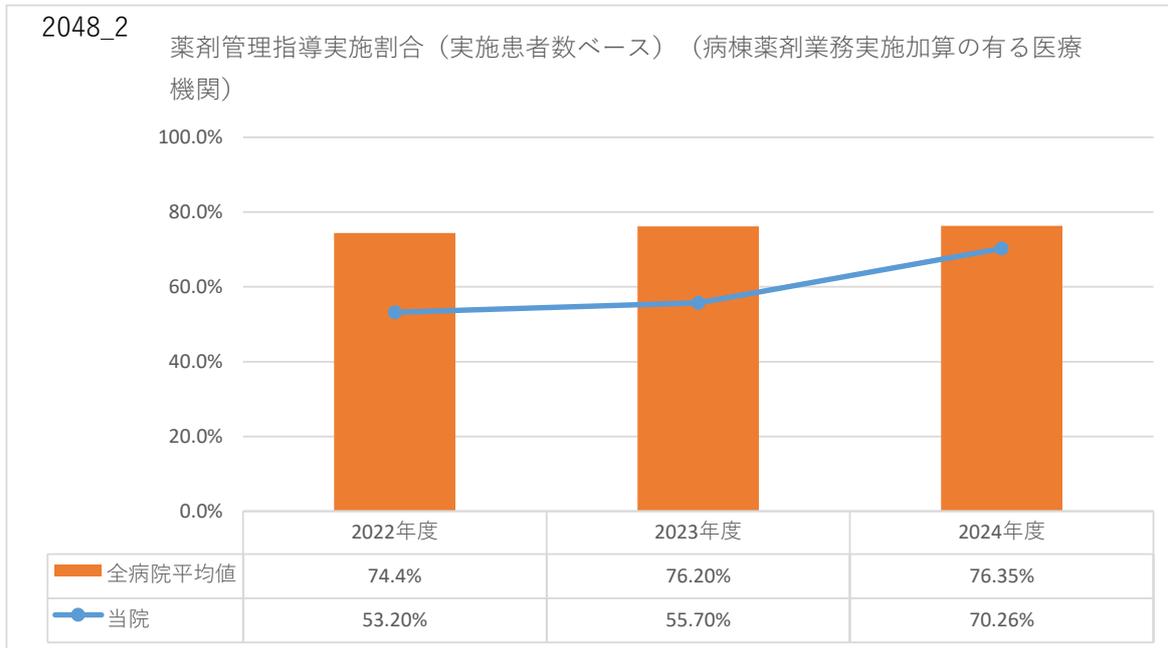
2143



意義 マネジメント

計算方法 分母 退院症例数

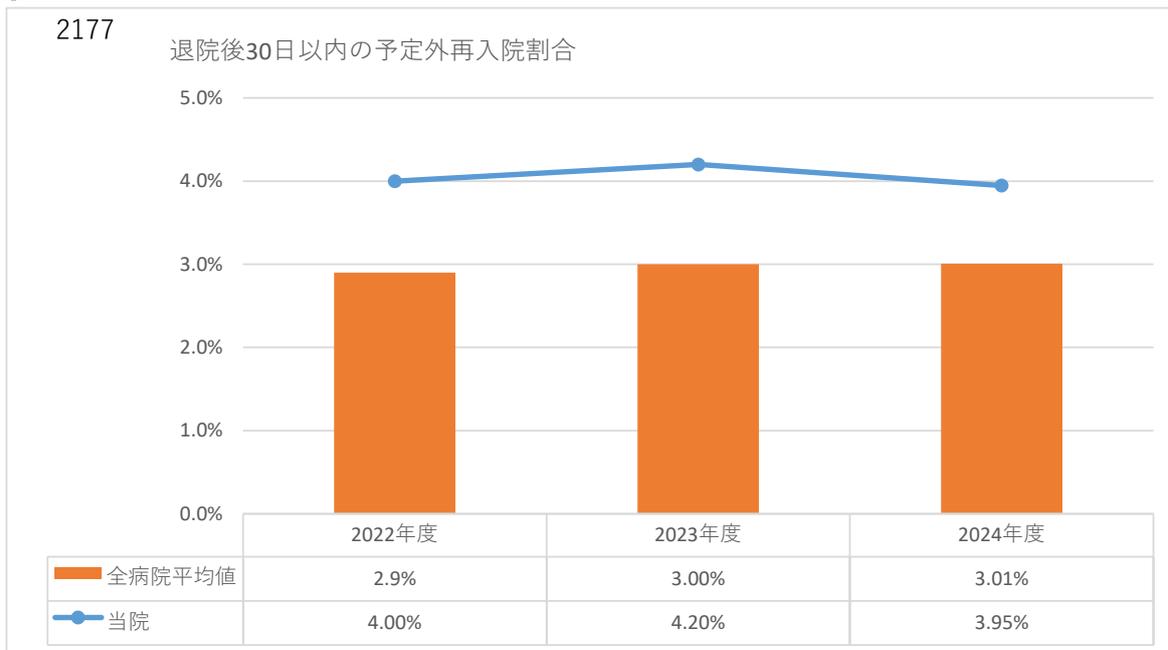
分子 分母のうち、前回退院から7日以内に計画外で再入院した患者



意義 薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる。

計算方法 分母 入院症例数

分子 分母のうち、薬剤管理指導を受けた症例数



意義 マネジメント

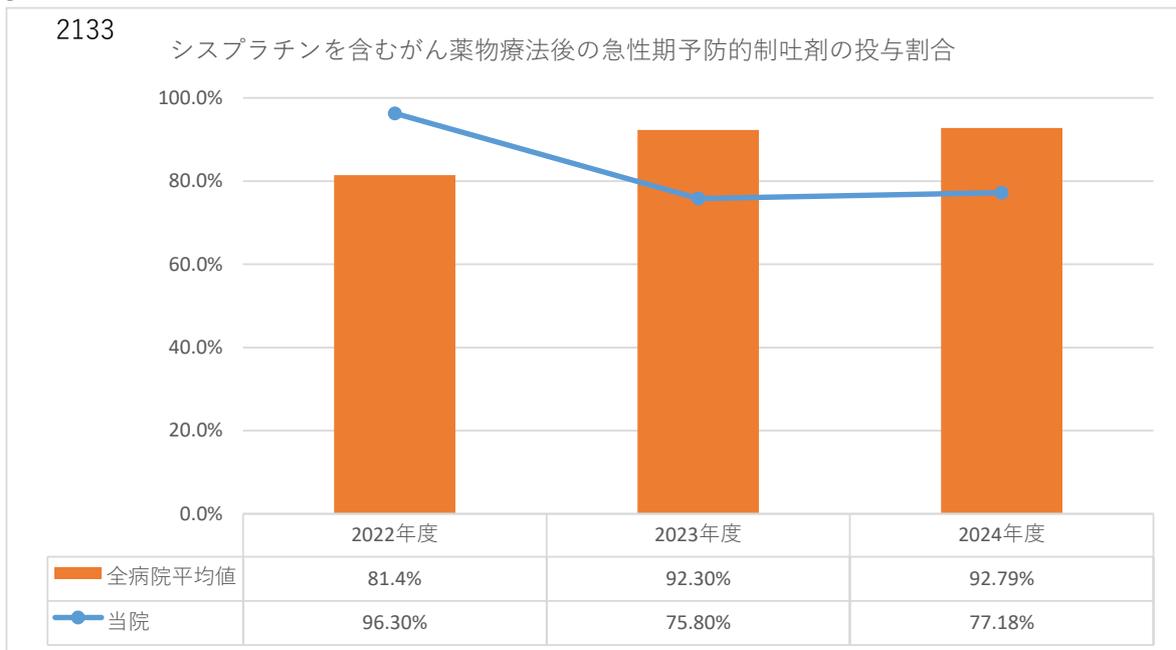
計算方法 分母 退院症例数

分子 分母のうち、前回退院から30日以内に計画外で再入院した患者



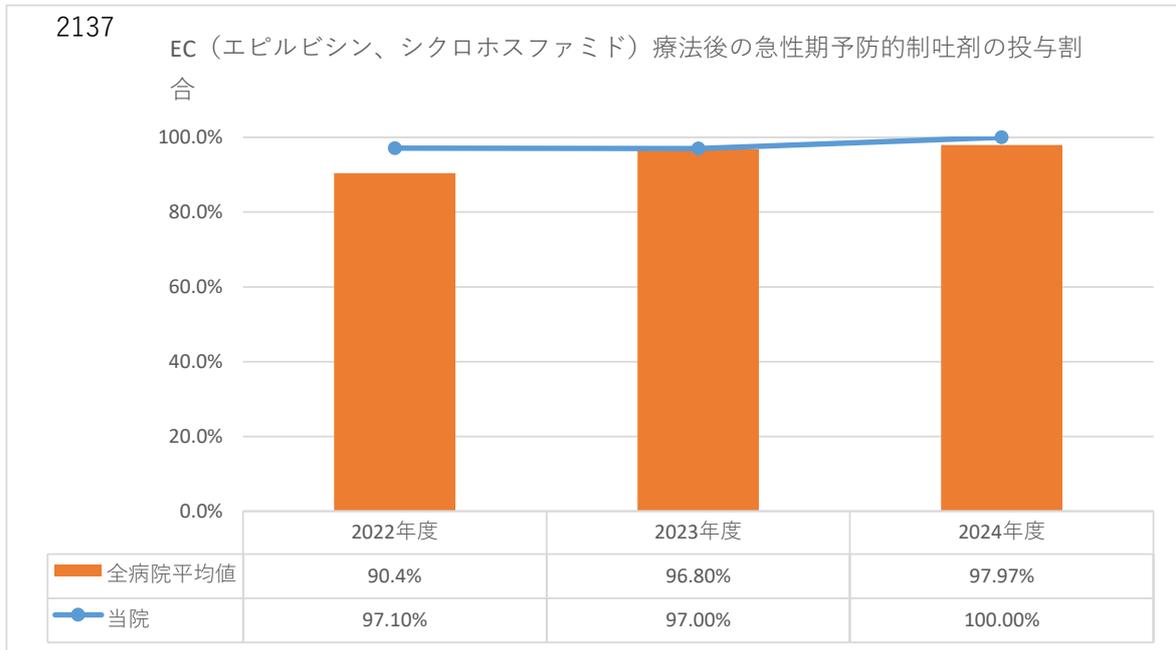
意義

計算方法 分母 外来における糖尿病性腎症の人月  
 分子 分母のうち、アンジオテンシン変換酵素阻害薬あるいはアンジオテンシンII受容体拮抗薬の処方されている人月



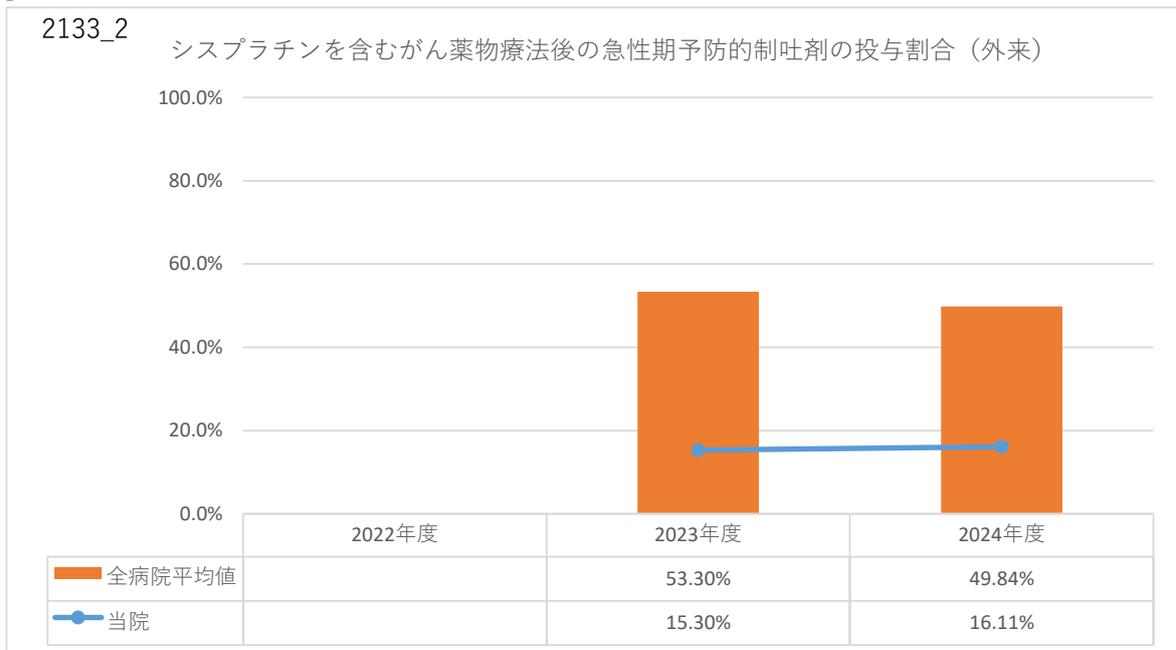
意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法 分母 18歳以上の症例で、入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた、実施日数  
 分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数



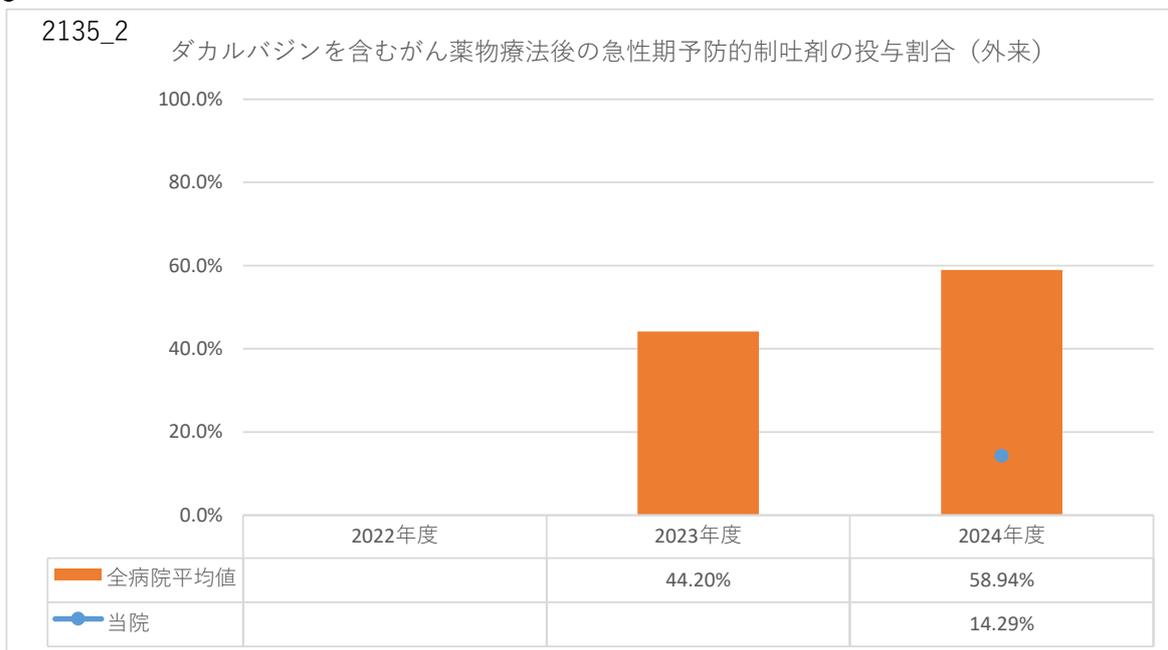
意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法 分母 18歳以上の症例で、入院にてエピルビシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に含む化学療法を受けた、実施日数  
分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数



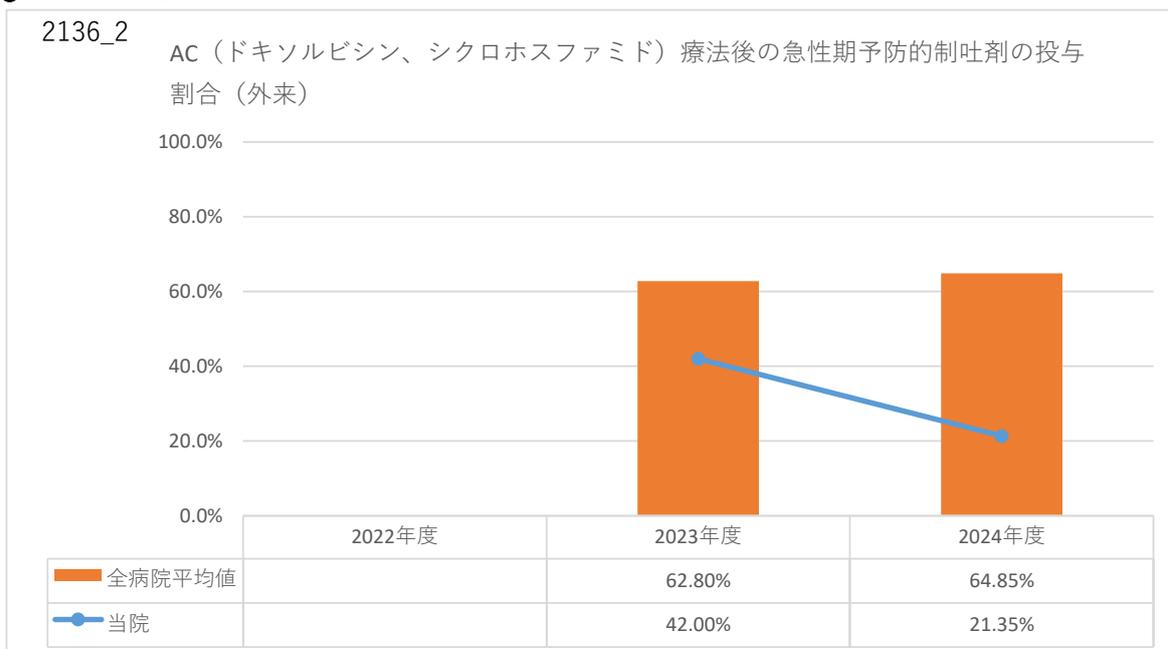
意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法 分母 18歳以上の症例で、外来にてシスプラチンを含む化学療法を受けた、実施日数  
分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数



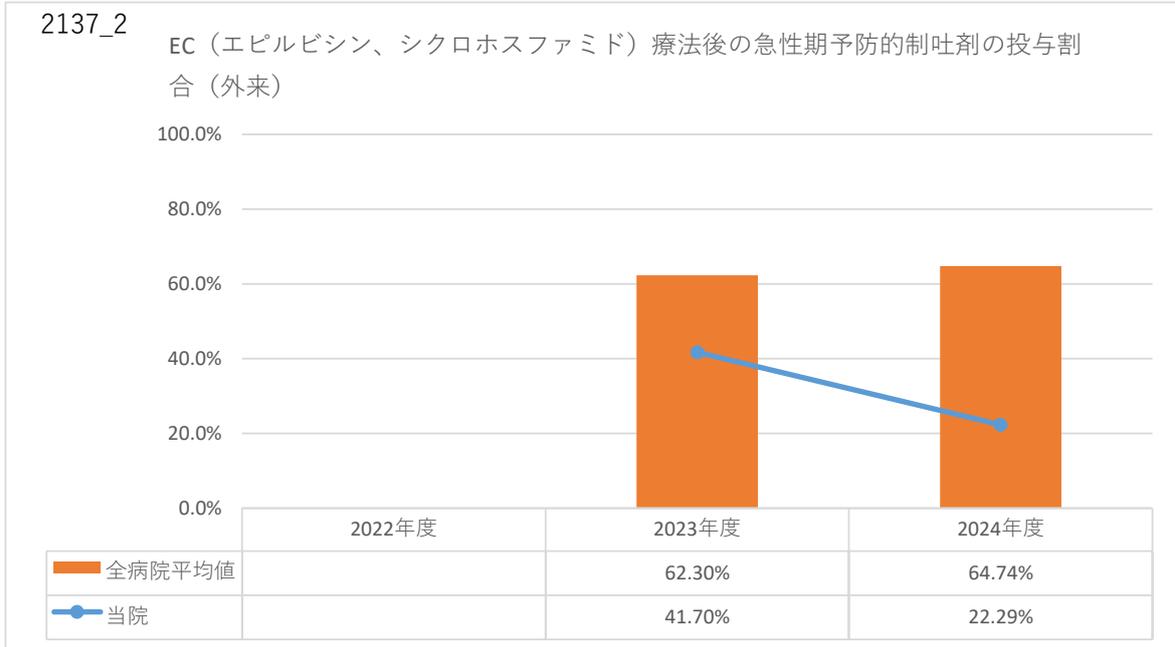
意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法 分母 18歳以上の症例で、外来にてダカルバジンを含む化学療法を受けた、実施日数  
 分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数



意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法 分母 18歳以上の症例で、外来にてドキシソルビシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に含む化学療法を受けた実施日数  
 分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数



意義 化学療法を円滑に進めるためのガイドライン遵守の計測

計算方法

分母 18歳以上の症例で、外来にてエピルビシン、シクロホスファミドの両薬剤を同日に含む化学療法を受けた、実施日数

分子 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数